

# 第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会

The 14th Japan Academy of Nephrology Nursing Science Meeting

会 期：2011年11月19日(土)・20日(日)

会 場：パシフィコ横浜 会議センター

大会長：萩原 千鶴子

(医療法人 眞仁会 横須賀クリニック)



## ご案内

理事長挨拶.....	4	座長へのご案内.....	12
大会長挨拶.....	5	発表者へのご案内.....	13
学術集会・総会概要.....	6	東日本大震災特別プログラム&交流集会 企画責任者の方へ.....	15
交通のご案内.....	7	日程表.....	16
会場のご案内.....	8		
参加者へのご案内.....	10		

## プログラム

会長講演.....	22	ランチョンセミナーのご案内.....	32
特別講演.....	22	一般演題(口演)	
教育講演.....	22	第1日目 11月19日(土).....	36
シンポジウム.....	24	第2日目 11月20日(日).....	38
東日本震災特別プログラム.....	26	一般演題(ポスター)	
交流集会		第1日目 11月19日(土).....	46
第1日目 11月19日(土).....	28	第2日目 11月20日(日).....	48
第2日目 11月20日(日).....	29		

## 抄録

会長講演.....	52	一般演題(口演)	
特別講演.....	53	第1日目 11月19日(土).....	72
教育講演.....	54	第2日目 11月20日(日).....	84
シンポジウム.....	58	一般演題(ポスター)	
東日本震災特別プログラム.....	64	第1日目 11月19日(土).....	118
交流集会		第2日目 11月20日(日).....	133
第1日目 11月19日(土).....	68		
第2日目 11月20日(日).....	69		

## 付録

第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会 企画委員会.....	150	後援・協賛団体・企業一覧.....	152
査読委員.....	151	広告	

# 理事長挨拶

## ご挨拶

理事長 **水附 裕子** 特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター

本年3月におきました東日本大震災という未曾有の天災に加え、福島原発問題とそれに伴う放射能被害による避難などにより、今でも制限された生活を強いられている皆様方に、まず謹んで震災のお見舞いを申し上げ、被害にあわれた多くの方々の一日も早いご快癒をお祈りしたいと思います。

さて、今年には日本腎不全看護学会設立後、14年目を迎えることとなりました。年1回開催しております学術集会・総会も同様に14回目を迎え、よりいっそうの向上が望まれております。

学会の設立趣旨にもありますように、患者さんの安全を確保することや、患者さんや家族が日々の生活を送るためのよりよい援助について、学会活動の真価が問われるところですが、震災後の透析看護の継続については、東北地方を中心とした活動や、実際の支援活動、関東地方での支援状況など、何が起きたのか、何ができたのか、何が良かったのかなど様々な形で報告し、語りあうことも今回の大会長のご協力により可能となりました。聴いて頂くこと、語っていただくことをプログラムの中に設けてあります。参加することでそのことを確かめて頂きたいと思います。

第14回学術集会・総会の大会長・萩原千鶴子氏は透析医療に長年携わられ、患者さんへの支援のみならず実践者の指導・教育、病院運営や看護管理、医療安全などにも精通した知識をもち、透析看護を追及されてきました。

「見つめよう 伝えよう 広げよう 私の腎不全看護」と題した今学会における、会長講演の「腎不全看護の専門性を見えるかたちに」というテーマは、大会長のライフワークとしての姿勢を表す言葉とも考えます。

透析医療の変遷や多様化からみる看護のとらえ方や自身の看護観への揺さぶりといえるような特別講演・教育講演が多く予定されており、交流セッションや演題発表など「表現する」機会も、多く設けてあります。

後援団体も、関東近県の看護協会をはじめ、市や関連学会、研究会など地域の多くのネットワークを活用し、連携の必要性を強調しておられます。

看護の現場を守り、実践者としてのキャリアアップを考える良い機会となることは自明の理です。実り多い機会として活用して頂きたいと思います。

最後に、日本腎不全看護学会の活動を、平素より支援してくださっている会員の皆様や、腎不全看護の領域で働いている方、教育に携わっている方、支援して下さる全ての方々に感謝申し上げるとともに、今後ともより一層のご協力を心よりお願い申し上げます。

# 大会長挨拶

## 第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会の開催挨拶

大会長 萩原 千鶴子 医療法人真仁会 横須賀クリニック

第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。まず、はじめに本年3月11日に発生した東日本大震災それに伴う原子力発電所事故によって被災された、関係地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈りいたします。

さて、第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会のテーマは、「見つめよう 伝えよう 助けよう 私の腎不全看護」といたしました。

わが国の透析患者数は2010年末29万7千人を超え、増加する患者数は未だ衰える気配がありません。臨床の場に目を転じれば、高齢化、重複化・重度化する合併症を持つハイリスクな患者群の増加を背景に、キュアとケアを統合し安心と安全を支える看護の専門的能力、高度な実践力がより一層求められてきております。CKD概念の普及とともに、腎不全看護の専門的知識、看護ケア技術の提供の場が広がる中、腎不全看護の質の保証、専門性確立に向けた取り組みは、本学会においてますます重要となると考えます。

看護の質の保証、専門性は、臨床の多くの看護実践によって支えられており、1人ひとりの看護者によるよりよい実践が腎不全看護のより一層の充実と発展につながると考えます。学術集会では、日々の中で行われている看護実践のプロセスとアウトカムをきちんと評価し、それを看護の成果として説明し伝えていくことを通じて、腎不全看護の標準化、専門性の確立、チーム医療という協働における看護の役割等について討論を進めていきたいと思っております。

参加される皆様お1人おひとりが患者さんとの関わりで得た腎不全看護への「こだわり」「大切にしたい思い」を含め「私の腎不全看護」を語り共有する機会としていただけることを願っております。

特別講演では、慢性の病いととも生きることへの理解とその支援について、教育講演は、看護の可視化、看護ケアの質評価、リスクマネジメント、フットケアなど現在、そして将来にわたって腎不全看護が取り組むべき課題を予定しております。また、シンポジウムでは、外来、病棟、クリニック、地域など様々な場所、立場からの実践報告を基に看護の広がりや連携について考える機会としていきたいと思っております。

一般口演・示説、交流集会の他に、本学術集会では、この度の大震災で被災地支援にご尽力された方々の貴重な体験をもとに今後の中・長期的な支援のあり方等を考える東日本大震災特別プログラムも予定いたしました。多くの皆様に参加いただき、本学術集会が日頃の看護の成果、「私の腎不全看護」についての活発な意見交換と交流を深める機会としていただけることを願っております。

## 第14回 日本腎不全看護学会学術集会・総会概要

---

テーマ：『見つめよう 伝えよう 助けよう 私の腎不全看護』

会 期：平成23年11月19日(土)～20日(日)

会 場：パシフィコ横浜 会議センター  
〒220-0012  
神奈川県横浜市西区みなとみらい一丁目1番1号  
TEL：045-221-2166 (交通案内) 045-221-2155 (総合案内)

会 長：萩原 千鶴子 (医療法人真仁会 横須賀クリニック)

事務局：日本腎不全看護学会事務局  
〒231-0005  
神奈川県横浜市中区本町6-52 横浜エクセレント VII 305  
TEL：045-226-3091 FAX：045-226-3092

## 平成23年度 日本腎不全看護学会 通常総会

---

平成23年度通常総会を下記の通り開催いたします。

日 時：平成23年11月19日(土) 13：05～13：50

会 場：パシフィコ横浜 会議センター 1階 メインホール

議 題：1. 平成22年度事業報告について  
2. 平成22年度収支報告について  
3. 平成23年度事業計画について  
4. 平成23年度収支計画について  
5. その他

総会開催案内状(別途、往復はがきで正会員に郵送)を受領された方は、必ず出欠席をお知らせください。欠席の方は委任状をお書きの上、必ず押印されたはがきをご返信ください。学術集会に参加予定でも、総会への出席が未定の場合は、必ず委任状をお出しください。

# 交通のご案内



## ● 交通のご案内

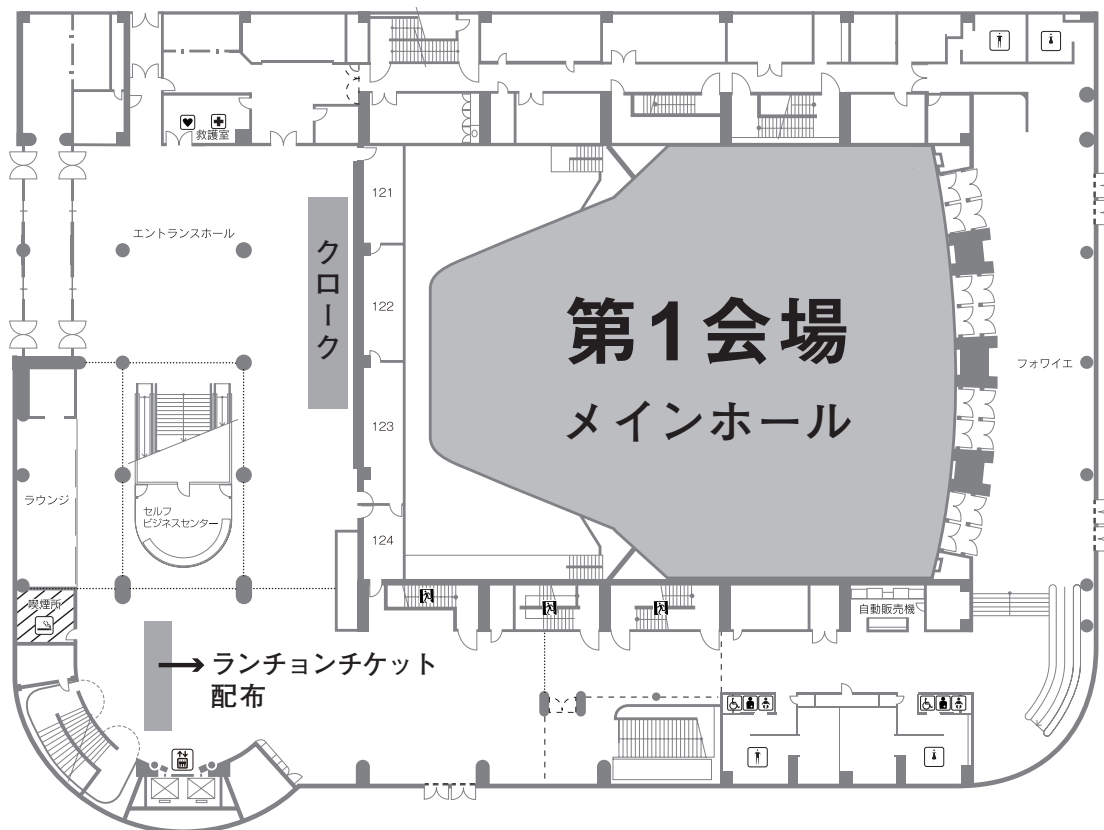
飛行機で	羽田空港	リムジンバス (パシフィコ横浜行きは35分)	35分	パシフィコ横浜 PACIFICO YOKOHAMA				
		リムジンバス	30分					
	成田空港	京浜急行	24分		タクシー	7分		
		リムジンバス (パシフィコ横浜行きは120分)	90分					
電車・新幹線で	渋谷駅	東急東横線:特急→みなとみらい線 (東急東横線・みなとみらい線 直通運転)	30分	みなとみらい線	3分	徒歩	3分	
		東京駅	JR東海道線	25分				
	新横浜駅	JR横浜線	3分	菊名駅	東急東横線			
		JR横浜線			JR京浜東北線	3分	徒歩	12分
		横浜市営地下鉄				15分	桜木町駅	バス 7分 タクシー 5分
	お車で	[東京方面より]	横羽線 横浜公園方面		横羽線			
		[関西・中部方面より]	湾岸線 (ベイブリッジ経由) 横浜方面		みなとみらいランプ		約3分	
		東名高速横浜町田IC	保土ヶ谷バイパス 約15分 ▶ 狩場IC ▶ 高速神奈川3号 狩場線横浜方面 約10分 ▶					

# 会場のご案内

# パシフィコ横浜 会議センター

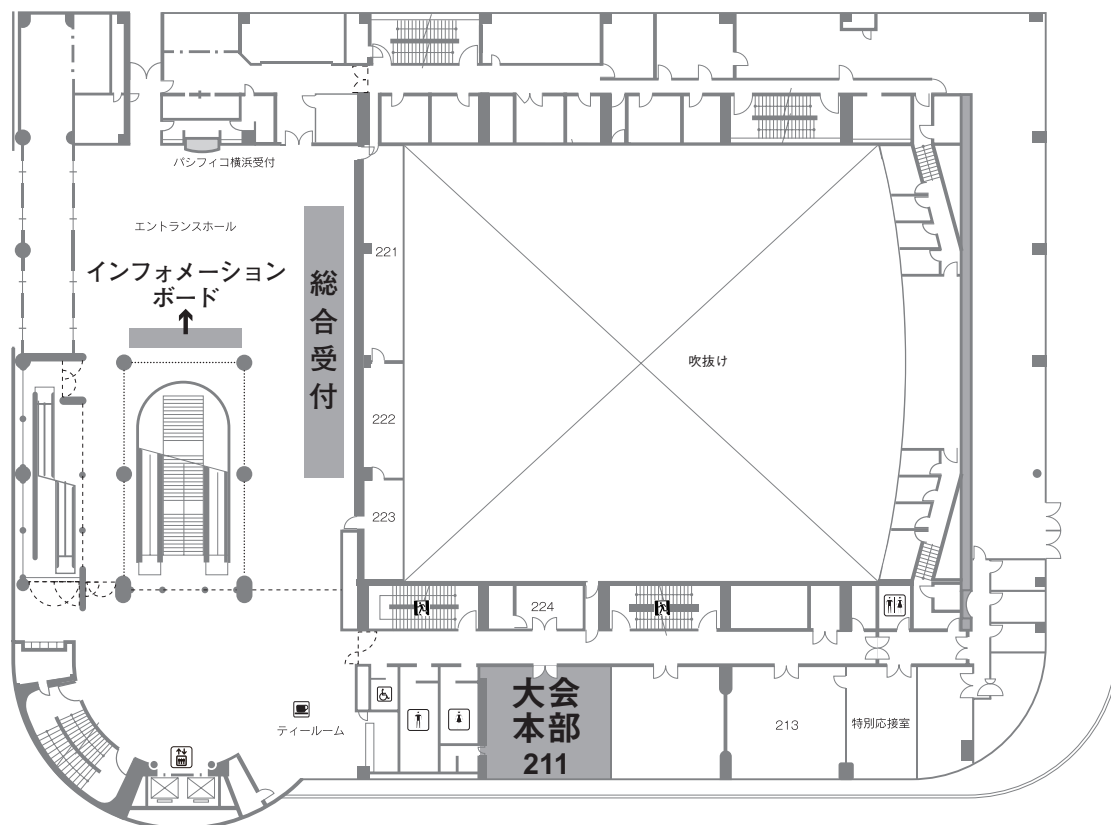


## 1F

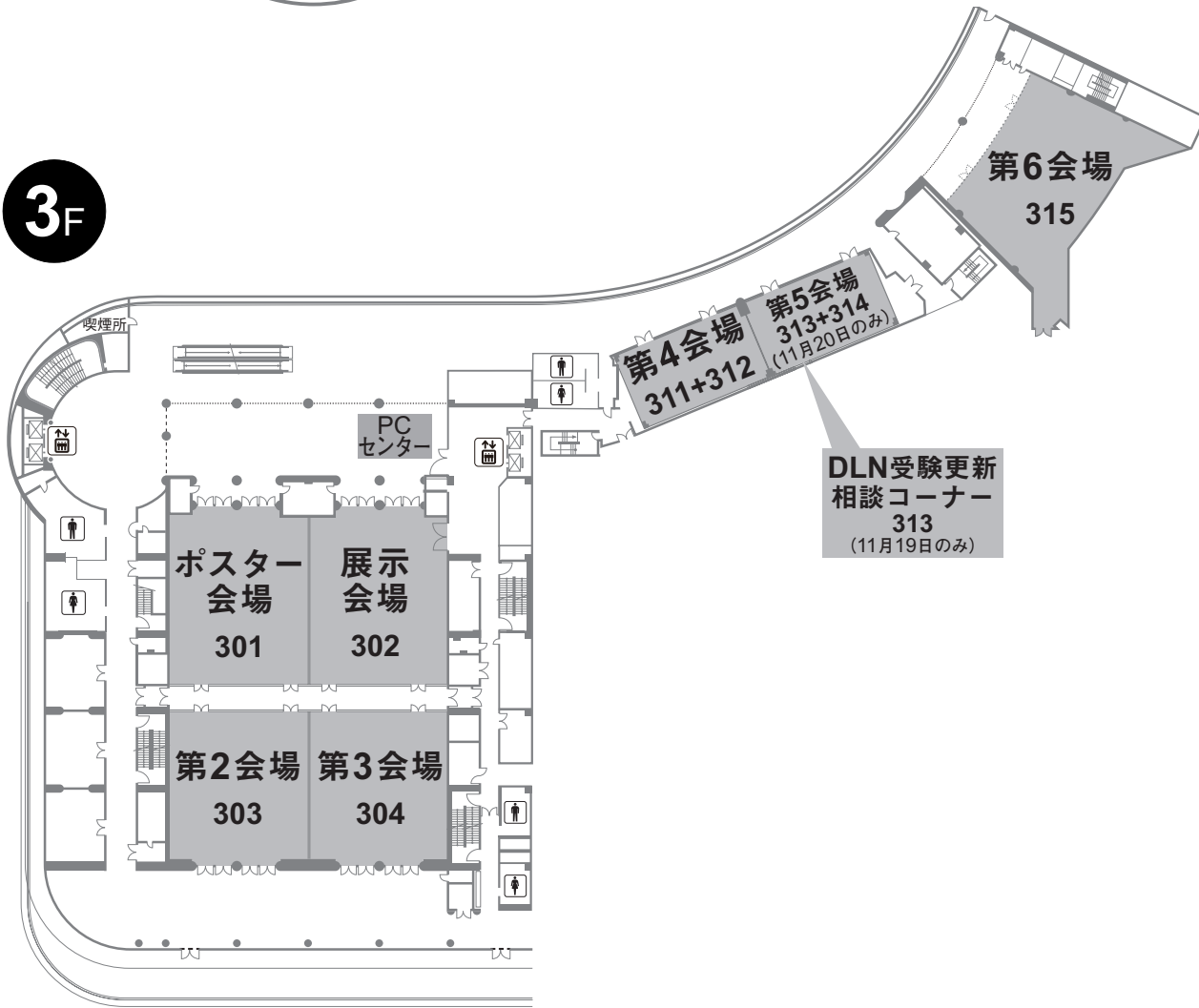




**2F**



**3F**



# 参加者へのご案内

## □ 受付

【場所】 パシフィコ横浜 会議センター 2階エントランスロビー

【時間】 11月19日(土) 8:30~16:30

11月20日(日) 8:30~15:30

## □ 参加受付

学術集会参加には、学会員・非学会員を問わず参加申し込みが必要です。  
会場内では、必ず参加証(ネームカード)にお名前・所属をご記入し、ご着用ください。

### 1. 10月20日までに参加費を振り込まれた方

事前に送付された参加証を事前参加受付までお持ちください。参加証の半券と引き換えに、カードケースや資料等をお渡しします。

\* 事前申込みの方でも、当日受付で半券をいただかないとポイントの証明が確認できない場合がございます。

### 2. 10月20日までに参加費を振り込まれた方で、事前に参加証がお手元に届いていない方、参加証を紛失された方

事前受付にて参加費を払込の際の払込明細など、送金が完了した旨のわかるものをご提示ください。

\* 入金を確認できなかった場合には、当日参加とさせていただきます。また、事前に振り込まれた参加費については、理由の如何を問わず返金できませんのでご了承ください。

\* 参加費領収書の再発行はできませんのでご了承ください。

### 3. 当日参加申し込みの方

当日受付にて参加費をお支払頂き、参加証と抄録集をお受け取りください。

\* 当日受付で半券をいただかないとポイントの証明が確認できない場合がございます。

### 【参加費】

登録区分	事前登録	当日登録
会 員	9,000円	12,000円
非会員	12,000円	15,000円
学 生 ※学生証の提示が必要です	3,000円	3,000円

注) 今回の学会(第14回大会)のプログラム・抄録集は本大会参加申込者のみに配布されます。  
事前参加登録者でご入金手続きが完了している場合には大会前に送付いたします。  
当日ご参加の方には大会総合受付にて参加費と引き換えにお渡しいたします。

## □ クローク

パシフィコ横浜 会議センター 1階エントランスロビー

11月19日(土) 8:30~17:00

11月20日(日) 8:30~15:30

※貴重品、傘などはお預かりできませんので、予めご了承ください。

## □ 託児所

託児所をご利用の方はご自身にてご予約を行ってください。

詳細につきましては下記ホームページよりご確認ください。

- キッズスクウェア (パンパシフィック横浜ベイホテル東急 内)  
ホームページ：[http://www.alpha-co.com/ks\\_yokohama\\_ichiji.jsp](http://www.alpha-co.com/ks_yokohama_ichiji.jsp)  
電話番号：045-640-6008
- イマジン・チャイルド・ディベロップメント・センター (ランドマークタワー 13F)  
ホームページ：<http://www.toyaku.biz/html/imagine/>  
電話番号：045-224-2121

## □ 昼食について

参加者用の昼食として、以下の日時にランチョンセミナーを企画しております。

11月19日(土) 11:45~12:45

第1会場(1階 メインホール)    第2会場(3階「303」)    第3会場(3階「304」)  
第4会場(3階「311+312」)    第6会場(3階「315」)

11月20日(日) 11:30~12:30

第1会場(1階 メインホール)    第2会場(3階「303」)    第3会場(3階「304」)

※ランチョンチケットの配布日時及び場所は以下の通りです(無くなり次第終了させていただきます)。

【日時】 11月19日(土) 8:30~11:00

11月20日(日) 8:30~11:00

【場所】 パシフィコ横浜 会議センター 1階ロビー

## □ 災害発生時の対応

災害発生時は各会場で避難のアナウンスがありますので、それに従ってください。非常口および避難経路図は各自でも非常通路をご確認ください。なお、災害発生時はエレベーターは使用しないでください。

## □ インフルエンザ対策

インフルエンザ感染防止の為、以下のご協力をお願いいたします。

- 「手洗い・うがい」をこまめに行い、できる限りマスクをご持参頂き着用ください。
- インフルエンザに感染されている場合は、ご来場をご自粛ください。

## □ ご注意

1. 限られた時間内に討論ができますよう、質問・討論される方は、あらかじめマイクの前にお並びください。司会の指名によりご所属、お名前を告げてから、質問・討論を開始してください。
2. 会場内での許可のない写真撮影、録音、VTR収録は禁止いたします。取材・撮影対象者の同意を得てから、事前に学会事務局までお申し出ください。
3. 座席確保の為に私物を長時間座席に置くことはご遠慮ください。
4. 携帯電話は予めマナーモードに設定いただくか、電源をお切りください。
5. 会場内での呼び出しは原則として行いません。参加者へのご連絡は2階エントランスロビーに設置しておりますインフォメーションボードをご利用ください。緊急連絡の場合は、総合受付までお申し出ください。

# 座長へのご案内

---

## □ 口演発表の座長

- ご担当セッションの開始15分前までに、各会場右手前方の次座長席にご着席ください。
- 一般口演は、1演題10分(発表7分、質問・討論3分)とし、所定時間内に終了するよう進行してください。

## □ ポスター発表の座長

- ご担当セッションの開始15分前までに、3階「301」会議室のポスターセッション受付までお越しください。
- 1演題あたり7分程度(発表5分、質疑2分)とし、所定時間内に終了するよう進行してください。
- 限られた時間ではありますが、質疑応答のみではなく、研究の概要や成果など演者が伝えたい事も発表できる場となるよう進行をお願いいたします。

# 発表者へのご案内

## □ 口演発表の方へ

### 1. PCセンター (受付・試写について)

口演発表の方は、発表60分前までにPCセンター (口演演者受付) にお越し頂き、発表データの受付・試写を行ってください。

【受付場所】 パシフィコ横浜 会議センター 3階ロビー

【受付時間】 11月19日 (土) 8:30~16:30

11月20日 (日) 8:30~14:00

### 2. 発表について

- 前の発表が始まりましたら、各会場左手前方の次演者席にご着席ください。
- 発表は、演台上にセットされておりますモニター・ワイヤレスマウスをご使用し、ご自身で操作してください。
- 発表時間は、発表7分、質問・討論3分の計10分です。時間内に終了を厳守ください。

### 3. 発表データの作成について

- 事務局でご用意しているパソコンのOSおよびアプリケーションは以下の通りです。  
【Windows】 OS: Windows XP/PowerPoint 2000/2003/2007/2010  
※Macintoshでデータを作成された場合は、ご自身のPCをお持ちください。
- 発表形式は、ノートパソコンおよびメディア (CD-RまたはUSBメモリー) のお持ち込みによる発表となります。
- 動画や音声ファイルの使用は原則ご遠慮いただきます。必要な方は一週間前までに学会事務局へお問い合わせください。
- 発表に使用するPCは全てXGA (1024×768) に統一してありますので、ご使用のPCの解像度をXGAに合わせてから発表データの作成をしてください。  
※このサイズより大きい場合、または画面をぎりぎりまで使用し作成すると再現環境の違いにより文字や画像のはみ出し等の原因になることがあります。
- メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス対策ソフトで事前にチェックをお願いいたします。

#### 【メディアを持参される場合】

1. お持ち込みになるメディアはCD-RまたはUSBメモリーに限ります。
2. 事前にデータ作成に使用したPC以外で動作確認を行い、正常に動作することをご確認ください。
3. 不足の事態に備えて、必ずバックアップデータをお持ちください。
4. コピーした発表データは、学会終了後、事務局側で責任を持って消去いたします。

### 【PC本体を持ち込まれる場合】

1. 会場に用意したプロジェクター接続のコネクタ形状はD-sub15ピン(ミニ)です。一部のノートパソコンでは専用のコネクタが必要な場合がありますので、必ず持参してください。
2. スクリーンセーバーならびに省電力設定は事前に解除してください。
3. 会場にて電源をご用意しておりますので、電源コードは必ずお持ちください。
4. 不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをお持ちください。
5. 発表開始15分前までに会場内演台付近(各口演会場前方左側)のPCオペレーター席までPC本体をご自身でお持ちください。  
発表終了後、PCオペレーター席にて返却いたします。

## □ ポスター発表の方へ

### 1. 受付・貼付・撤去について

- 発表者の方は、11月19日の貼付時間内に、ポスター会場前のポスター受付にお越しください。貼付用の押しピンと演者用リボンをお渡しします。
- ポスターは会期中の2日間掲示していただきます。

会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階「301」

受付・貼付日時：11月19日(土) 8:30~10:00

発 表 日 時：11月19日(土) 14:30~15:30  
20日(日) 13:00~14:00

撤 去 日 時：11月20日(日) 14:30~15:00

※時間までに撤去されないポスターにつきましては、事務局にて処分いたします。

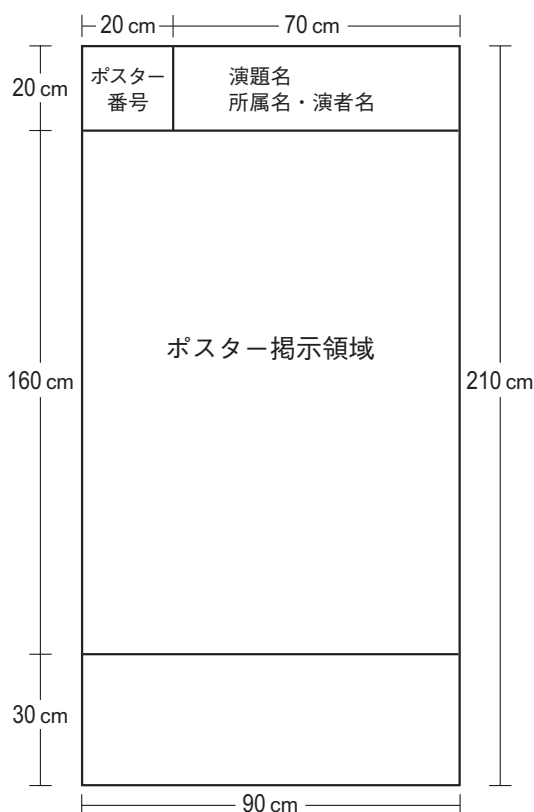
### 2. 発表について

- 発表者は発表時間になりましたら、演者用リボンを目立つところに着用して、ご自身のポスターの前で待機をお願いいたします。
- 発表は1演題につき7分程度(発表5分、質疑2分)を予定しております。短い時間ではございますが、意義のある発表を行っていただければと存じます。
- 進行は座長によって行います。発表者の方は座長の進行に従い、発表、質疑を行ってください。

### 3. ポスターの仕様について

ポスターの掲示領域は、縦160 cm、横90 cmです。右図の『ポスター掲示領域』に収まるように掲示してください。

(A4横で14枚、A3横で8枚入るサイズになります)  
ポスター番号はあらかじめ掲示してありますが、演題名・所属名・著者名の表示はご自身でご準備ください。



---

# 東日本大震災特別プログラム&交流集会 企画責任者の方へ

---

1. 企画責任者の方は、担当のセッション開始20分前までに、「交流集会」会場にお越しください。  
※会場責任者は20分前には各会場で待機しております。  
わからない場合には、スタッフ証を付けた運営スタッフへ確認してください
2. 東日本大震災特別プログラムは90分です。交流集会の発表時間は60分です。  
運営・会場の設営は、企画責任者の方が責任を持って行ってください。  
会場はシアター形式になっております。レイアウトの変更がある場合は1週間前までに運営事務局にご連絡をください。
3. 会場内には、予めパソコン1台、プロジェクター1台、スクリーン、マイク(3本)、レーザーポインター(1本)を用意しておりますが、それ以外に必要な物品につきましては企画責任者にて準備を行ってください。  
企画責任者にて準備ができない備品・機材につきましては、有料ですが学会設営業者へ依頼することも可能です。必要な際は1週間前までに運営事務局にご連絡ください。
4. 打合せ室が必要な場合は1週間前までに運営事務局までメールでお申し出ください。  
打合せ室の使用時間、場所につきましては、主催者にて決定させていただきます。

# 日程表 第1日目：11月19日(土)

	第1会場	第2会場	第3会場
	メインホール	3階 303	3階 304
8:00			
	8:30~ 受付開始		
9:00	9:00~9:10 <b>開会の辞</b>		
	9:10 <b>会長講演</b> 腎不全看護の専門性が見えるかたちに 大会長：萩原千鶴子 9:55 座長：高橋 妙子		
10:00	10:00 <b>特別講演</b> 「病いとともに生きる」を援助する ークロニックイルネスの視点からー 黒江 ゆり子 座長：萩原 千鶴子		
11:00	11:30		
12:00	11:45 <b>ランチョンセミナー 1</b> 腎性貧血治療 (仮称) 渡邊 有三 座長：水附 裕子 共催：中外製薬株式会社 12:45	11:45 <b>ランチョンセミナー 2</b> HYBRID D-FAS機能導入により 透析看護現場はどう変わったか! ? 三木 小百合 座長：小澤 潔 共催：日機装株式会社 12:45	11:45 <b>ランチョンセミナー 3</b> スタッフと共に考える適切な アクセス評価と看護について 平ひとみ・星井英里 座長：中山重雅 共催：日本コヴィディエン株式会社 12:45
13:00	13:05 <b>通常総会</b> 13:50		
14:00			
15:00	14:30 <b>教育講演 1</b> 看護ケアの質評価への取り組み 鄭 佳紅 座長：杉田 和代	14:20 <b>一般演題 (口演) O-1</b> 看護・その他 1 座長：小江 奈美子	14:20 <b>一般演題 (口演) O-2</b> 患者・家族の理解 1 座長：田中 順也
16:00	15:45	15:20 <b>一般演題 (口演) O-3</b> 看護・その他 2 座長：松岡 由美子	15:20 <b>一般演題 (口演) O-4</b> 看護体制・システム・管理 1 座長：榊 みのり
17:00		16:20	16:20
		16:30 <b>基礎教育セミナー 1</b> 透析機器の基本的理解	16:30 <b>基礎教育セミナー 2</b> 看護診断入門
		18:00	18:00



第4会場		第6会場	ポスター会場	
3階 311 + 312	3階 313	3階 315	3階 301	
				8:00
			8:30	
			ポスター貼付	9:00
			10:00	
		10:00		10:00
		<b>東日本大震災 特別プログラム 1</b> 東日本大震災に際し、 「透析療法ボランティア 派遣活動」を経験して 佐藤 久光		11:00
		11:30		
11:45	11:45	11:45		12:00
<b>ランチョンセミナー 4</b> ナースのための インシデント対策講座 篠田 俊雄 座長：富樫 たつ子 共催：富士フィルム株式会社 12:45	DLN受験更新 相談コーナー	<b>ランチョンセミナー 5</b> 透析における感染対策(仮称) 長尾 尋智 座長：満田 年宏 共催：株式会社ジェイ・エム・エス 12:45	ポスター 供覧	
	13:00			13:00
	14:00			14:00
14:20	DLN受験更新 相談コーナー	14:20		15:00
<b>交流集会 1</b> 熊本県における透析導入期 指導パス運用の評価 第2報 企画：宮本 友子	15:00	<b>東日本大震災 特別プログラム 2</b> 東日本大震災時での 透析看護を語る 「その時!! 現場では……」 小手田 紀子	14:30	15:00
15:20			ポスター 発表	
15:20		15:50	15:30	
<b>交流集会 2</b> 覗いてみよう隣の透析施設 ～透析学習の機会の違いを知って、 繋がろう～ 企画：山本 美和	15:50			16:00
16:20	DLN受験更新 相談コーナー			
16:30	17:00	16:30		17:00
<b>第2回看護研究研修</b> DLN：看護研究		<b>基礎教育セミナー 3</b> 穿刺技術と カテーテル管理のコツ		
18:00		18:00		

# 日程表 第2日目：11月20日(日)

	第1会場	第2会場	第3会場
	メインホール	3階 303	3階 304
8:00			
	8:30～ 受付開始		
9:00	9:00 <b>教育講演 2</b> あらためて、医療安全を考える ～医療事故の経験から伝えたいこと～ 高山 詩穂 座長：佐藤 久光	9:00 <b>一般演題 (口演) O-5</b> フットケア 座長：島崎 玲子	9:00 <b>一般演題 (口演) O-6</b> 患者・家族の理解 2 座長：山口 洋子
10:00	10:00 <b>教育講演 3</b> 看護現場学・「経験の概念化」 による看護の可視化 陣田 泰子 座長：下山 節子	10:00 <b>一般演題 (口演) O-8</b> 看護・その他 3 座長：飯田 明美	10:00 <b>一般演題 (口演) O-9</b> 患者・家族の理解 3 座長：山口 則子
11:00			
		11:30 <b>ランチョンセミナー 7</b> リンとどうつき合うか？ 深川 雅史 座長：大坪 みはる 共催：バイエル薬品株式会社	11:30 <b>ランチョンセミナー 8</b> 知って納得！日常診療で取り組む 透析患者さんの合併症対策 江崎アサ子・赤津サトミ・平田純生 座長：江川隆子 共催：鳥居薬品株式会社
12:00	11:45 <b>ランチョンセミナー 6</b> 思い込み「～のはず」に潜む 安全対策の落とし穴 田中 健次 座長：高橋 妙子 共催：協和発酵キリン株式会社 12:45	12:30	12:30
13:00	13:00 <b>シンポジウム</b> 腎不全看護の実践力 －現場からの発信－ 井島 順子 三上 裕子 井本 千秋 赤津サトミ 上田 聡美 座長：中山 重雅・江崎 アサ子	13:00 <b>一般演題 (口演) O-11</b> 災害 座長：近藤 美幸	13:30 <b>教育講演 4</b> ナースが行う安全フットケア 山口 晴美 座長：山本 ひろ子
14:00		14:00 <b>一般演題 (口演) O-13</b> 看護体制・システム・管理 2 座長：今井 恵美子	
15:00	15:00	15:00	15:00
	<b>閉会のあいさつ</b>		
16:00			
17:00			

第4会場	第5会場	第6会場	ポスター会場	
3階 311 + 312	3階 313 + 314	3階 315	3階 301	
				8:00
9:00 <b>交流集会 3</b> 維持透析患者の 体重コントロール ～塩分制限指導を試みて～ 企画：甲斐 道子	9:00 <b>一般演題 (口演) O-7</b> バスキュラーアクセス 座長：高橋 京子	9:30 <b>東日本大震災 特別プログラム 3</b> 聴こう、語ろう、 私の災害体験 災害看護 (こころのケア)を学ぶ その時私は・・・ そして今私は・・・ 赤津 サトミ	ポスター 供覧	9:00
10:00 <b>交流集会 4</b> 診療報酬申請を目指す人のための介入研究の基礎 一透析看護のエビデンスを示すために 企画：岡 美智代	10:00 <b>一般演題 (口演) O-10</b> 医療安全 座長：佐藤 幸子			10:00
11:00	11:00	11:00		11:00
				12:00
13:00 <b>交流集会 5</b> ナースングバイオメカニクス に基づいた生活行動 回復看護技術の効果 企画：宮本 友子		13:00 <b>一般演題 (口演) O-12</b> 看護・その他 4 座長：柏木 英里子	13:00 ポスター 発表	13:00
14:00		14:00	14:00	14:00
14:00 <b>交流集会 6</b> 誰がモンスターベイシエント なの？ 企画：二之湯 勝則	14:00 <b>一般演題 (口演) O-14</b> 心理・精神 座長：茶木 祐子	14:00 <b>一般演題 (口演) O-15</b> セルフケア 座長：薄井 園	14:30 ポスター撤去 15:00	14:00
15:00	15:00	15:00		15:00
15:00 <b>閉会のあいさつ</b>				15:00
				16:00
				17:00



# 主要講演プログラム

---

## 主要講演

第1日目 11月19日(土) 第1会場(メインホール)

---

### 会長講演

9:10~9:55

座長：高橋 妙子 佐藤循環器科内科

---

#### 『腎不全看護の専門性が見えるかたちに』

萩原千鶴子 医療法人眞仁会 横須賀クリニック

---

### 特別講演

10:00~11:30

座長：萩原千鶴子 医療法人眞仁会 横須賀クリニック

---

#### 『「病いととともに生きる」を援助するークロニックイルネスの視点からー』

黒江ゆり子 岐阜県立看護大学・大学院

---

### 教育講演 1

14:30~15:45

座長：杉田 和代 聖マリアンナ医科大学病院

---

#### 『看護ケアの質評価への取り組み』

鄭 佳紅 青森県立保健大学 健康科学部看護学科

## 主要講演

第2日目 11月20日(日) 第1会場(メインホール)

### 教育講演 2

9:00～10:00

座長：佐藤 久光 特定医療法人衆済会 増子記念病院

『あらためて、医療安全を考える ～医療事故の経験から伝えたいこと～』

高山 詩穂 架け橋～患者・家族との信頼関係をつなぐ対話研究会

### 教育講演 3

10:00～11:00

座長：下山 節子 NPO特定非営利活動法人 日本看護キャリア開発センター

『看護現場学・「経験の概念化」による看護の可視化』

陣田 泰子 済生会横浜市南部病院 院長補佐

## 主要講演

第2日目 11月20日(日) 第3会場(304)

### 教育講演 4

13:30～15:00

座長：山本ひろ子 佐藤循環器科内科

『ナースが行う安全フットケア』

山口 晴美 HANA NURSING THERAPY

## 主要講演

第2日目 11月20日(日) 第1会場(メインホール)

### シンポジウム

13:00~15:00

#### 「腎不全看護の実践力 ―現場からの発信―」

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

#### 『「このクリニックで透析を続けたい」患者の願いを叶えるための在宅支援を考える』

井島 順子 医療法人社団三宝会 志都呂クリニック 看護師長

#### 『腹膜透析患者との導入から在宅における連携の実際』

三上 裕子 岡山済生会総合病院 腎臓病センター

#### 『保存期教育入院における関わりの中で私が思うこと』

井本 千秋 近江八幡市立総合医療センター 腎臓センター

#### 『地域での腎不全看護の実践』

赤津サトミ 諏訪赤十字病院

#### 『『その人らしさ』に則った生活調整支援』

上田 聡美 医療法人社団手稲ネフロクリニック



# 東日本震災特別プログラム

---

## 東日本震災特別プログラム

第1日目 11月19日(土) 第6会場(315)

---

### 東日本震災特別プログラム 1

10:00~11:30

『東日本大震災に際し、「透析療法ボランティア派遣活動」を経験して』

佐藤 久光 医療法人衆済会 増子記念病院

---

### 東日本震災特別プログラム 2

14:20~15:50

『東日本大震災時での透析看護を語る「その時!! 現場では……」』

小手田紀子 医療法人緑栄会 三愛記念病院

## 東日本震災特別プログラム

第2日目 11月20日(日) 第6会場(315)

---

### 東日本震災特別プログラム 3

9:30~11:00

『聴こう、語ろう、私の災害体験 災害看護(こころのケア)を学ぶ  
その時私は・・・、そして今私は・・・』

赤津サトミ 諏訪赤十字病院

# 交流集会プログラム

---

## 交流集会

第1日目 11月19日(土) 第4会場(311+312)

---

### 交流集会 1

14:20～15:20

---

『熊本県における透析導入期指導パス運用の評価 第2報』

宮本 友子 医療法人如水会 嶋田病院

---

### 交流集会 2

15:20～16:20

---

『「覗いてみよう隣の透析施設」～透析学習の機会の違いを知って、繋がろう～』

山本 美和

交流集会

第2日目 11月20日(日) 第4会場(311+312)

交流集会 3

9:00~10:00

『維持透析患者の体重コントロール ～塩分制限指導を試みて～』

甲斐 道子 県立奈良病院 人工透析室

交流集会 4

10:00~11:00

『診療報酬申請を目指す人のための介入研究の基礎  
ー透析看護のエビデンスを示すために』

岡 美智代 群馬大学大学院 保健学研究科

交流集会 5

13:00~14:00

『ナーシングバイオメカニクスに基づいた生活行動回復看護技術の効果』

宮本 友子 医療法人如水会 嶋田病院

交流集会 6

14:00~15:00

『誰がモンスターペイシェントなの?』

二之湯勝則 市立四日市病院 人工透析室



# ランチョンセミナーのご案内

---

ランチョンセミナー 第1日目 11月19日(土) 11:45~12:45

ランチョンセミナー 1

第1会場 (メインホール)

『腎性貧血治療』(仮称)

講師 渡邊 有三 春日井市民病院 院長  
座長 水附 裕子 日本腎不全看護学会 理事長  
特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター 看護部長  
共催 中外製薬株式会社

ランチョンセミナー 2

第2会場 (303)

『HYBRID D-FAS機能導入により透析看護現場はどう変わったか! ?』

講師 三木小百合 医療法人財団博仁会 キナシ大林病院 看護部 主任  
座長 小澤 潔 医療法人眞仁会 横須賀クリニック 院長  
共催 日機装株式会社

ランチョンセミナー 3

第3会場 (304)

『スタッフと共に考える適切なアクセス評価と看護について』

講師 平 ひとみ あかね会 中島土谷クリニック 臨床工学技士  
星井 英里 東京女子医科大学病院 看護部  
座長 中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
共催 日本コヴィディエン株式会社

※2011年10月29日に日本シャード株式会社より社名変更致しました。



---

ランチョンセミナー 4

第4会場 (311 + 312)

---

『ナースのためのインシデント対策講座』

講師 篠田 俊雄 社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 透析センター長

座長 富樫たつ子 医療法人真仁会 三浦シーサイドクリニック 看護科長

共催 富士フイルム株式会社

---

ランチョンセミナー 5

第6会場 (315)

---

『透析における感染対策』(仮称)

講師 長尾 尋智 医療法人知邑舎 岩倉病院 看護部長・透析室長

座長 満田 年宏 公立大学法人 横浜市立大学附属病院 感染制御部・部長 准教授

共催 株式会社ジェイ・エム・エス

ランチョンセミナー 第2日目 11月20日(日) 11:45~12:45

---

ランチョンセミナー 6

第1会場 (メインホール)

---

『思い込み「~のはず」に潜む安全対策の落とし穴』

講師 田中 健次 電気通信大学 大学院 情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 教授

座長 高橋 妙子 佐藤循環器科内科 看護部長

共催 協和発酵キリン株式会社

ランチョンセミナー 第2日目 11月20日(日) 11:30~12:30

ランチョンセミナー 7

第2会場 (303)

『リンとどうつき合うか?』

講師 深川 雅史 東海大学医学部内科学系 腎内分泌代謝内科 教授  
座長 大坪みはる 特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター 副看護部長  
日本腎不全看護学会 理事  
共催 バイエル薬品株式会社

ランチョンセミナー 8

第3会場 (304)

『知って納得! 日常診療で取り組む透析患者さんの合併症対策』

講師 江崎アサ子 岡崎北クリニック 看護師長  
赤津サトミ 諏訪赤十字病院 長野県腎不全看護連絡会 代表  
平田 純生 熊本大学薬学部附属育薬フロンティアセンター長・臨床薬理学分野 教授  
座長 江川 隆子 関西看護医療大学 学長  
共催 鳥居薬品株式会社

Over view 江川 隆子

『透析患者さんと医療者のかゆみに対する意識のギャップ』 江崎アサ子

『透析患者さんの便秘の現状と問題点～アンケート結果からわかること～』 赤津サトミ

『どうしよう? かゆみ対策、便秘対策

～かゆみ治療薬、イオン交換樹脂の上手な使い方～』 平田 純生

# 一般演題 (口演) プログラム

---

## 一般演題 (口演)

第1日目 11月19日(土) 第2会場(303)

### O-1 看護・その他 1

14:20~15:20

座長：小江 奈美子 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

- O-1-1 腎代替療法選択時の説明の現状と開始時の不安について  
森 陽紀 呉共済病院 腎泌尿器病棟
- O-1-2 血液透析導入の傾向についての一考察  
西堀 好恵 近江八幡市立総合医療センター 腎臓センター
- O-1-3 PD Rescueセミナー 質問紙調査から  
宇賀神ゆかり バクスター(株)
- O-1-4 CKD(慢性腎臓病)への腎不全教育の取り組み  
—腎不全教育プログラムを実施し、効果的な腎教育を行えているかを検証する—  
岩下 和子 半田市立半田病院 6B病棟
- O-1-5 A病院における透析療法選択外来受診者の報告  
井出加奈子 富士市立中央病院 6B病棟
- O-1-6 外来通院患者の実態調査から腎疾患患者の看護を考える  
奥野 優恵 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立急性期・総合医療センター

### O-3 看護・その他 2

15:20~16:20

座長：松岡 由美子 医療法人社団恵章会 御徒町腎クリニック

- O-3-1 管理栄養食と常食の比較・検討  
山本 和枝 翡翠会 ツルマジッククリニック
- O-3-2 血液透析患者におけるPTEG(経皮経食道胃管挿入術)の管理  
松前 美幸 (医) 島津会 幡多病院
- O-3-3 透析患者の運動とその効果  
小塚 加代 特定医療法人 衆済会 増子クリニック 昂
- O-3-4 透析者における血液透析施行中の運動療法について  
渡邊真由実 社会保険滋賀病院 腎センター
- O-3-5 糖尿病性腎症から透析導入となった患者の透析前の食事体験  
石井 俊行 四国大学 看護学部 看護学科
- O-3-6 栄養評価シート使用スタッフの多面的観察能力向上方法についての検討  
野島奈穂美 増子記念病院 看護部

## 一般演題（口演）

第1日目 11月19日（土） 第3会場（304）

**O-2 患者・家族の理解 1**

14：20～15：20

座長：田中 順也 市立堺病院 人工透析室

- O-2-1 保存期患者の透析に対する思い  
岡田 恵子 埼玉社会保険病院 腎センター
- O-2-2 CAPD+HD併用療法を開始した一例  
田中 恵美 武蔵野赤十字病院
- O-2-3 高齢者の慢性腎不全治療選択時の看護師の役割  
國仲 初美 医療法人 八重瀬会 同仁病院 看護部
- O-2-4 血液透析導入患者への関わり ～病棟出張指導を行って～  
石川 愛菜 医療法人 原三信病院、医療法人 原三信病院 呉服町腎クリニック
- O-2-5 何度も緊急搬送されても、透析導入を拒否し続けた壮年期患者に対する看護介入  
～当院で初めてPDを導入して～  
片岡今日子 城南福祉医療協会 大田病院
- O-2-6 保存期糖尿病性腎症患者のセルフマネジメント能力向上を目指した  
学習援助型プログラムの効果の検討  
加澤 佳奈 医療法人一陽会 原田病院

**O-4 看護体制・システム・管理 1**

15：20～16：20

座長：榊 みのり 筑波大学附属病院 外来

- O-4-1 当院の透析療法指導看護師の現状と今後の課題  
浜崎 智美 蒼龍会 井上病院 6階病棟
- O-4-2 とやまCKD地域連携パス運用における看護師の取り組み  
中田美智代 富山市立 富山市民病院 腎不全看護エキスパートナース
- O-4-3 透析エキスパートナースに期待されるもの -実践指導者養成研修のレポートから-  
中原 宣子 (医)トキワクリニック
- O-4-4 石川県における透析療法従事看護師の業務実態  
町 貴代江 金沢赤十字病院
- O-4-5 透析導入患者の指導統一を目指したクリティカルパスの検討  
廣澤加世美 さくら記念病院 2F病棟

## 一般演題 (口演)

第2日目 11月20日(日) 第2会場(303)

### O-5 フットケア

9:00~10:00

座長：島崎 玲子 医療法人社団慶寿会 さいたまつきの森クリニック 看護部

- O-5-1 外来透析でのフットケアにおける、ABI・SPP測定の有用性について  
海津 明子 医療法人社団 樺会 小平北口クリニック
- O-5-2 透析室でのフットケアの取り組み ー大切な10本の足趾のために今できることー  
南 和美 石川県立中央病院 透析療法室
- O-5-3 下肢病変の発生リスクにあった介入頻度を考える  
～algorithm表を活用したフットケアの取り組み～  
櫻井あかり 公立藤岡総合病院 透析室
- O-5-4 チーム医療で救肢できた1症例 ～看護師・医師・理学療法士の連携～  
綱 あけみ (社)八日会 藤元早鈴病院 透析室
- O-5-5 透析室でのフットケアを拒否し重症足病変から下腿切断に至った一症例  
～看護・関わりを継続させるチームのあり方～  
松本ゆかり 医療法人社団 長谷川病院 透析医療センター
- O-5-6 維持透析患者のASO(閉塞性動脈硬化症)治療症例から 看護介入を考える  
～意図的看護介入で透析患者にフットケアを伝えたい～  
森下 裕美 慶應義塾大学病院

### O-8 看護・その他3

10:00~11:00

座長：飯田 明美 独立行政法人労働者健康福祉機構 新潟労災病院

- O-8-1 コメディカルスタッフへのコミュニケーションスキル向上への取り組み  
～ストローク理論を実施して～  
原 典子 眞仁会 逗子桜山クリニック
- O-8-2 透析療法指導看護師(DLN)の活動実態  
江藤真由美 石川県立中央病院
- O-8-3 一般病棟への継続看護の取り組み ～連携した勉強会を実施して～  
中間美沙子 独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター 救命救急センター
- O-8-4 研修制度設立からの4年間を振り返って ～新人看護師の離職率改善要因を考える～  
喜瀬はるみ 松園会 東葛クリニック病院
- O-8-5 透析チームで「看護を語る」～心ひとつ～の取り組み  
馬淵 理嘉 仁誠会クリニック 光の森
- O-8-6 スタッフ増員は介護ケアの充実につながったか ー病棟における取り組みー  
登口 貴子 医療法人 佐藤循環器科内科 病棟

**O-11 災害**

13：00～14：00

座長：近藤 美幸 医療法人社団 邦腎会 大井町駅前クリニック

- O-11-1 不穏状態が強い認知症透析患者の看護  
水野 清美 医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院
- O-11-2 災害時の適切な行動の定着を目指す防災訓練  
～災害インフォメーションタイムを取り入れて～  
津村 美佳 眞仁会 三浦シーサイドクリニック
- O-11-3 災害対策の再検討 ～東日本大震災後の調査から～  
佐藤 彩 仙台社会保険病院 血液透析部
- O-11-4 転院時の高齢患者への関わり ～不満や不安のある患者へのアプローチ～  
平良 梓 医療法人 新生会 十全クリニック
- O-11-5 未曾有の震災における患者との関わりを通して  
佐藤美枝子 多賀城腎・泌尿器クリニック 透析室
- O-11-6 東日本大震災を経験して ～小規模病院で出来たこと～  
坂本 和子 医療法人 永仁会 永仁会病院 腎センター 看護部

**O-13 看護体制・システム・管理 2**

14：00～15：00

座長：今井 恵美子 医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター

- O-13-1 保存期慢性腎臓病教育入院の有用性の検討  
－慢性腎臓病教育入院前後の塩分・蛋白質推定摂取量及びアンケート調査を通して－  
宮下真寿美 石川県立中央病院
- O-13-2 透析支援システムDr. Hemodyにケアボードを連携して  
蘭田 桂子 医療法人 荒川クリニック
- O-13-3 当院透析患者の看護必要度  
畠山 広実 佐藤循環器科内科
- O-13-4 透析室人事考課における客観性・整合性を高める試みをして  
上野 岳洋 医療法人 衆済会 増子記念病院 看護部 透析室
- O-13-5 スタッフへのストレスマネジメントの試み ーストレス実態調査からー  
依田 典子 立正佼成会付属佼成病院 腎センター

## 一般演題（口演）

第2日目 11月20日（日） 第3会場（304）

### O-6 患者・家族の理解 2

9：00～10：00

座長：山口 洋子 本村内科医院

- O-6-1 CKD保存期の継続的な外来患者支援を目指して  
小山千代美 腎内科クリニック世田谷
- O-6-2 110Kgの減量に成功した患者の継続支援 ～透析導入からの関わり～  
米村 朋代 財団法人甲南病院 六甲アイランド病院 血液浄化センター
- O-6-3 腹膜透析患者の出口部ケア管理状況の実態と出口部ケアに対する感じ方  
—オープンケアを阻む要因の検討—  
高田 舞 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 人工透析室
- O-6-4 家族の全面的な支援が必要な高齢者への腹膜透析導入 ～家族ケアを中心に振り返る～  
薄井 園 公立学校共済組合 東海中央病院
- O-6-5 服薬管理の背景からの一考察 ～透析患者にとって高リン血症薬とは～  
吉開 聡子 山口大学 医学部 附属病院
- O-6-6 患者にとって自己管理は何かを理解する  
安倍奈美子 医療法人あさお会 あさおクリニック

### O-9 患者・家族の理解 3

10：00～11：00

座長：山口 則子 NTT東日本札幌病院

- O-9-1 『透析はしたくない！』『お父ちゃん頑張ってる！』  
～本人と家族、スタッフの交錯する思い～  
森下美代子 社会医療法人 同仁会 耳原総合病院
- O-9-2 透析患者における看護師との会話のしやすさと話しかけるプロセス  
宮越由紀美 公立丹南病院 看護部 透析室
- O-9-3 認知症を合併する後期高齢透析患者の安定した血液透析療法の継続を目指して  
佐藤 恵子 医療法人社団聖仁会 我孫子聖仁会病院
- O-9-4 長時間透析をする患者に病みの軌跡理論を用いて関わった事例の1考察  
木村ひとみ 特定医療法人財団健和会 みさと健和クリニック
- O-9-5 癌を発症した長期透析患者の意思を尊重した関わり  
坊坂 桂子 湘南鎌倉総合病院
- O-9-6 「病みの軌跡」理論を基に考える長期透析患者の合併症症状軽減への看護  
谷 明子 新潟県立 六日町病院 人工透析室



## 一般演題（口演）

第2日目 11月20日（日） 第5会場（313+314）

**O-7 バスキュラーアクセス**

9：00～10：00

座長：高橋 京子 医療法人眞仁会 三浦シーサイドクリニック

- O-7-1 ボタンホール穿刺患者の心理的变化を考察した1例  
～PDに戻る予定だったHD患者とのインタビューから～  
佐藤 正一 特定・特別医療法人頌徳会 日野クリニック 血液浄化室
- O-7-2 導入期における血液透析患者のバスキュラーアクセス管理への支援  
永田 裕香 埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部
- O-7-3 バスキュラーアクセス血流感染リスク因子分析  
金本 智代 兵庫医科大学病院 看護部
- O-7-4 短期型バスキュラーカテーテル管理方法の標準化に向けて  
～現状分析による気付きと展望～  
郷右近朋美 仙台社会保険病院 腎センター 3病棟4階
- O-7-5 穿刺トラブルにより透析拒否を示す患者へのナラティブアプローチ  
内村由美子 仁誠会クリニック 黒髪

**O-10 医療安全**

10：00～11：00

座長：佐藤 幸子 医療法人社団石川記念会 日比谷石川クリニック

- O-10-1 透析装置操作ミス防止への取り組み  
～穿刺時患者から離れる前にプライミング不備や条件設定ミスのチェックをして～  
佐藤 陽子 JA北海道厚生連 旭川厚生病院
- O-10-2 血液透析患者への安全な輸血方法の検討  
～佐賀県内透析施設におけるアンケート調査から～  
松本 貴子 済生会唐津病院、佐賀県腎不全看護研究会
- O-10-3 血液透析療法の事故防止にダブルチェックを実施しての効果  
谷 好美 医療法人 康仁会 西の京病院
- O-10-4 持続型赤血球造血刺激因子製剤へ変更後のインシデントへの影響  
平山 由美 佐藤循環器科内科
- O-10-5 高齢透析患者の抜針事故防止策  
佐藤 華香 回生会 宝塚病院

---

## O-14 心理・精神

14:00～15:00

座長：茶木 祐子 小山市民病院 看護部 人工透析センター

---

- O-14-1 末期腎癌患者を経験して  
大竹 直江 医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院
- O-14-2 患者の意思決定を尊重した退院調整困難患者の在宅へ向けての退院支援について  
縄田 麻衣 福岡赤十字病院 西5階病棟
- O-14-3 心臓外科手術を受ける透析患者の心理について考える  
～患者アンケート調査及び面接から～  
小林 裕子 総合病院 国保旭中央病院
- O-14-4 膀胱癌で終末期を迎えた血液透析患者の看護を考える  
～その人らしく生ききることを支えたチームケア～  
上田 泰枝 福岡赤十字病院 看護部
- O-14-5 当院看護師のユーモアの志向性と笑いについての実態調査  
藤澤 京子 社会医療法人名古屋記念財団金山クリニック
- O-14-6 腹膜透析患者の出口部感染と患者ストレスとの関連  
佐伯 美記 熊本赤十字病院 看護部 腎センター

## 一般演題（口演）

第2日目 11月20日（日） 第6会場（315）

**O-12 看護・その他 4**

13：00～14：00

座長：柏木 英里子 医療法人尽心会 亀井病院

- O-12-1 維持透析患者の腎移植への関心と現状 ～外来透析施設での看護師の役割～  
折居 朱里 医療法人 眞仁会 横須賀クリニック
- O-12-2 当クリニックにおける透析後の起立性低血圧の発生状況  
～調査結果の分析と予防についての一考～  
星野 有紀 医療法人社団 石川記念会 川越駅前クリニック
- O-12-3 壮年期男性の家族の希望で早期に透析導入した事例  
佐藤 明美 磐田市立総合病院
- O-12-4 難治性透析関連頭痛に対するアロマセラピーの効果  
高木志緒理 医療法人 衆和会 長崎腎クリニック
- O-12-5 透析医療に携わる看護師の献腎移植登録患者に対する在り方  
日野佐智子 衆済会 増子記念病院 看護部

**O-15 セルフケア**

14：00～15：00

座長：薄井 園 公立学校共済組合東海中央病院 血液浄化センター

- O-15-1 CKD（慢性腎臓病）保存期看護が患者に及ぼす影響  
武田 晶子 医療法人 回生会 宝塚病院
- O-15-2 透析患者の便秘解消への取り組み ～生活習慣の改善に対するセルフケア向上の支援～  
外間 千春 医療法人 沖縄徳洲会 中部徳洲会病院 透析センター
- O-15-3 通院透析患者の内服に対する実態調査  
湊川あゆみ 名古屋記念財団 東海クリニック
- O-15-4 腹膜透析から血液透析へ移行した患者への水分管理への取り組み  
～合併症予防を目指して～  
高比良真央 医療法人 原三信病院、医療法人 原三信病院附属呉服町腎クリニック
- O-15-5 家族介入により血糖コントロールが改善した受診中断の一例  
～変化ステージ理論に基づいてのアプローチ～  
松崎 政子 桃仁会病院 看護部
- O-15-6 リンコントロール不良の原因に対する看護介入の効果  
宮木早百合 福井赤十字病院 腎臓・泌尿器・透析センター



# 一般演題 (ポスター) プログラム

---

## 一般演題（ポスター） 第1日目 11月19日（土）ポスター会場（301）

### P-1 バスキュラーアクセス

14：30～15：30

座長：吉村 亜矢 東京女子医科大学 東医療センター

P-1-1 バスキュラーアクセスの自己管理に対する意識向上への取り組み  
ーセルフケア能力評価を使用してー

石田 伸幸 市立美唄病院 透析センター

P-1-2 長期留置型カテーテル管理の検討

酒井 真葵 金沢医科大学病院 腎臓内科

P-1-3 VA管理の統一化に向けてのスタッフ指導  
(バスキュラーアクセス・スコアリングを用いて)

伊勢 康雄 埼玉医科大学 総合医療センター

P-1-4 ペンレスを剥がした直後穿刺と手洗い後穿刺の穿刺部痛の違い

青木 優子 済生会新潟第2病院 人工透析室

P-1-5 当院の穿刺教育

山本 享代 医療法人社団 三遠メディメイツ 豊橋メイツクリニック

P-1-6 在宅血液透析患者への自己穿刺教育 ー金属針からテフロン針への変更ー

門嶋 洋子 医療法人 新生会 新生会第一病院

### P-2 フットケア・その他

14：30～15：30

座長：大谷 晶子 医療法人眞仁会 久里浜クリニック

P-2-1 下肢切断に至った糖尿病性腎症の患者への看護を考える

篠宮 亨 社会福祉法人恩賜財団静岡済生会総合病院 透析室

P-2-2 ASO患者において足病変の発症から治癒に至る症例を経験して

板谷 優子 川上内科

P-2-3 予防的フットケアに関する文献レビュー ー患者教育の介入効果を探るー

高松 正枝 公立南砺中央病院、富山大学医学薬学教育部 修士課程 看護学専攻 成人看護学

P-2-4 フットケアの取り組みとオリジナルケアプラン表の作成

杉田かおり 医療法人守一会 北美原クリニック 人工透析センター

P-2-5 下肢切断に至った3症例を振り返って

吉岡 陽子 医療法人 良秀会 藤井診療所

P-2-6 透析患者の褥瘡治療について

若林マリア 特定医療法人北楡会 札幌北楡病院 人工臓器治療センター

P-2-7 透析患者の痒み看護マニュアル作成の取り組み

黒田 清美 JAとりで総合医療センター 腎センター

## P-3 患者・家族の理解

14：30～15：30

座長：後藤 浩也 特定医療法人同心会 遠山病院

- P-3-1 自殺した透析患者と遭遇した看護師の経験から透析看護を考える  
岡山ミサ子 新生会第一病院
- P-3-2 高齢透析患者の介護者の介護継続意思に影響を及ぼす要因と支援の検討  
谷口 直美 大田市立病院 看護部
- P-3-3 透析導入前訪問を開始して  
渡辺 幸恵 健和会 大手町病院 透析室
- P-3-4 ラポールの形成が腎代替療法の選択に有効であった1例  
下野 英子 (医) 偕翔会 豊島中央病院 透析センター
- P-3-5 介護が必要な終末期透析患者が在宅療養を継続できた一症例  
馬場 悦子 名古屋記念財団 鳴海クリニック 看護部
- P-3-6 患者と共に無理のない水分制限を考えて  
伊藤 恵子 おのば腎泌尿器科クリニック
- P-3-7 腹膜透析導入に至った後期高齢者の自己管理指導  
生野 順子 金沢医科大学病院 新館5階東病棟

## P-4 看護・その他 1

14：30～15：30

座長：永井 美裕貴 財団法人甲南病院

- P-4-1 CKD患者における栄養状態の評価  
今井 杏奈 医療法人社団 クローズ・トゥ・ユー EST
- P-4-2 無床クリニックにおける介護・医療資源の地域連携  
渡邊明日香 おのば腎泌尿器科クリニック
- P-4-3 食物繊維含有食品・乳酸菌製剤の摂取による透析患者の排便の満足度  
長田 拓子 市立砺波総合病院 透析センター
- P-4-4 小規模多機能型居宅介護との連携を通じて学んだこと  
大前 和代 医療法人佳信会 クリニックつしま 透析室
- P-4-5 独居高齢者である透析患者にとってのPADとLDLアフェレシスの効果  
西村 真紀 医療法人 さとに田園クリニック 腎センター
- P-4-6 北部地区PD看護セミナーを開催して  
福原 真理 市立三次中央病院 人工透析室
- P-4-7 患者の望む場所での療養生活のために退院調整を行った一症例  
岩矢 和子 あかね会土谷総合病院 看護部 3階南病棟
- P-4-8 高齢糖尿病透析患者の在宅自己注射支援への取り組み  
一介護サービスを取り入れた2症例一  
高柳 由佳 恵仁会 三愛病院

一般演題（ポスター） 第2日目 11月20日（日） ポスター会場（301）

P-5 セルフケア

13：00～14：00

座長：谷口 千賀子 医療法人財団松圓会 東葛クリニック病院 看護部

- P-5-1 CKD外来における患者の行動変容に向けた取り組み  
濱田 昌実 名古屋大学 大学院 医学研究科 CKD地域連携システム寄附講座
- P-5-2 腎不全保存期教育入院の効果 ―退院後の自宅での生活の変化から―  
宮崎 有紀 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 腎臓・代謝内科病棟
- P-5-3 患者が満足できる透析ライフへのアプローチ  
森 隆嗣 萬田記念病院
- P-5-4 慢性腎臓病 (CKD) の患者にEASEプログラムを活用して  
―EASEプログラムがきっかけで変化した―事例―  
村瀬智恵美 新生会第一病院
- P-5-5 腎不全教室で伝えたい血圧測定の必要性 ～血圧測定の自己管理継続に焦点を当てて～  
石走 美紀 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立急性期・総合医療センター
- P-5-6 慢性腎臓病保存期の患者教育を考える  
中里 靖 医療法人 社団日高会 日高病院
- P-5-7 体重管理不良患者と良好患者の特性を探る  
飯沼 紀恵 岡谷市民病院
- P-5-8 体重管理困難な患者との関わり  
中村智恵実 医療法人社団クレド さとうクリニック

P-6 医療安全

13：00～14：00

座長：山崎 貴子 医療法人眞仁会 逗子桜山クリニック

- P-6-1 「透析用カテーテル使用時の看護」～窓付き透析用カテーテルカバーの作製を試みて～  
三浦あけみ 中部労災病院 透析室
- P-6-2 災害時対策への取り組み  
岡 友美 社会医療法人 里仁会 興生総合病院
- P-6-3 転倒リスクの高い患者への転倒防止指導の検討 ～患者向けパンフレットを作成して～  
高関 聡子 医療法人 眞仁会 久里浜クリニック
- P-6-4 石巻赤十字病院透析室へのボランティア支援の報告  
松浦 美樹 岡崎北クリニック



- P-6-5 H23年3月11日 東日本大震災 震度6弱 当院震災の記録  
大石由紀子 医療法人 庄司クリニック
- P-6-6 東日本大震災における当院透析センターの対応  
～災害時透析医療における指揮命令系統の重要性～  
櫻井 俊輔 財団法人 筑波麓仁会 筑波学園病院
- P-6-7 災害対策の再検討 ～震度5弱の地震を経験して～  
佐藤 麻世 医療法人 眞仁会 横須賀クリニック

---

## P-7 看護・その他 2

13:00～14:00

座長：山岸 昌子 聖隷佐倉市民病院

---

- P-7-1 保存期腎不全患者の意思決定支援  
田中 順也 市立堺病院 看護部
- P-7-2 透析看護領域でよく用いられる看護診断に対する看護治療(援助)に関する文献調査  
神谷 千鶴 関西看護医療大学、日本腎不全看護学会 研究・教育合同委員会
- P-7-3 血液透析患者のためのオリジナルラジオ体操の開発と効果  
～看護介入の違いによる運動への取り組み～  
柴田久仁子 群馬県済生会前橋病院
- P-7-4 慢性腎臓病 (CKD) 患者におけるEASEプログラムの効果  
ーセルフマネジメント行動と自己効力感ー  
上星 浩子 桐生大学医療保健学部看護学科
- P-7-5 腎臓病教室の評価 ～受講者アンケート調査より～  
千葉亜希子 医療法人社団恵仁会 三愛病院附属矢巾クリニック
- P-7-6 腎移植を受けるレシピエントの意思決定を支える看護支援のあり方  
林 未来 山口大学医学部附属病院 看護部 1病棟7階東
- P-7-7 人工透析管理手帳の有用性に関する実態調査  
鈴木 安代 横浜旭中央総合病院
- P-7-8 高齢透析患者を支える家族の生活力量と介護力評価  
吉山 舞 北柏リハビリ総合病院

---

**P-8 看護体制・システム・管理**

13:00～14:00

座長：長谷川 とし子 医療法人眞仁会 横須賀クリニック

---

- P-8-1 慢性腎臓病患者の教育支援に必要な知識の統一と患者教育の標準化を図る  
流下ゆかり 市立四日市病院 看護部 7B病棟
- P-8-2 教育入院時の透析室－病棟間の連携について ～申し送り用紙を作成・活用して～  
田原 尚恵 医療法人社団 清流会 双樹クリニック
- P-8-3 透析室スタッフをチーム編成してみよう  
澤村 美海 医療法人 新生会第一病院
- P-8-4 保存期慢性腎不全患者への看護師の関わりかた  
常松 瑠都 埼玉協同病院 看護部
- P-8-5 血液透析導入期チームの取り組み  
西山 貞香 衆済会 増子記念病院 第3透析室
- P-8-6 看護補助者と共に企画・運営をした研修を試みて  
－看護補助者教育プロジェクトの活動から－  
牧野 範子 医療法人新生会 十全クリニック
- P-8-7 病棟との連携強化の為の取り組み  
門田 恭子 医療法人 防治会 いずみの病院

# 主要講演抄録

---

## 腎不全看護の専門性を見えるかたちに

萩原 千鶴子

医療法人真仁会 横須賀クリニック

1998年わずか352名で発足した日本腎不全看護学会は、2011年11月現在その会員数3,800人を超える規模に拡大しました。この間に誕生した2つの資格制度による有資格者は、学会認定透析療法指導看護師(Dialysis Leading Nurse: DLN) 881名(7年間の延べ合格者数1019名)、日本看護協会認定の透析分野指導看護師(Certified Nurse: CN)は135名と、両制度を合わせ1,000名を超えたこととなります。専門領域の看護を確立するためには、一定の看護の水準を維持することはもちろん、その領域の看護の継続的な質の向上、機能の拡大を目指すことが必要となりますが、今後はこのような会員数の広がり、有資格者の増加を実践と研究を通じて社会的な認知と評価に繋げていくことが求められてくると思われま

さて、今回私は講演のテーマを「腎不全看護の専門性を見えるかたちに」といたしました。実際にはこのテーマは、本学術集会で掲げたメインテーマである「見つめよう 伝えよう 広げよう 私の腎不全看護」と同じ文節と考えております。看護の質の保証、専門性は、臨床の多くの看護実践によって支えられているのならば、1人ひとりの看護者の実践の中、臨床の中にこそ腎不全看護の専門性が存在するはずで

す。それでは、専門性をどのように見えるかたちとするのか、私は「実践を語る」ということを提案したいと思

います。「語る」ことで見えることには2つあります。実践、つまり経験を語るということは、私たち自身がその実践の価値や意味を見出し、認知するということであり、意識化されないまま見過ごされてしまう優れた実践の知を掘り起こすことにつながります。また、語ることの中身で重要なのは、実践の背景にある、看護者の思考、判断、知識、関心、感情といった表出されたケアや見える行為の基盤ですが、こうした内容を伝えることで、普段は暗黙的に個人の中に埋め込まれていた知が共有されることになると考えま

さらに、「実践を語る」、見える行為の基盤を伝えることは、腎不全看護とはどのようなものか、看護師は何をする人かを広く社会に伝えることを意味します。私たちの役割や仕事は、未だ一般の人にはもちろん身近なはずの同じ医療者にさえ十分理解されているとは言えません。看護の行っている「療養上の世話」、「診療上の補助」、また患者指導や相談、調整などはいずれも複雑な臨床判断と観察、熟練、理論、エビデンスの蓄積による行為ですが、私たち自身がそれを意図的に語らない限り、他者の理解は得られるはずもありません。同時に看護の知識・技術、価値を見えるように伝えていくことは、専門職としての私たちの説明責任でもあり社会的な責任でもあると思

います。「実践を語る」ことで集積された「腎不全看護の実践知」が、研究を通じてさらに発展・精選することで、腎不全看護の専門性をより鮮明に映し出すと考えま

## 「病いととともに生きる」を援助する ークロニックイルネスの視点からー

黒江 ゆり子

岐阜県立看護大学・大学院

現代社会において、人は誰もが病気の慢性状況に直面する可能性がある。人はこのような状況を予防したいと望み、また、予防が困難であれば状況を管理しようとする。このためには、生涯にわたる毎日の活動が必要であり、その多くは家庭などの日々の生活の場で行なわれる。また、疾患 (disease) と病い (illness) は同じような意味をもつ用語してとらえられてきたが、これらの用語は区別して考えることができる。疾患は、人体の構造と機能の変化のように生物学的モデルを基盤とした視点に立つ事柄と関わり、「病い」は、症状や苦しみを伴う人間の経験であり、個人と家族が病気をどのように感じているか、それとともにどのように生きているか、そしてどのように受けとめられているかなどと関わる。

腎不全を含む長軸的に続いていくこのような慢性状況は、クロニシティ (慢性性) として捉えられ、生きるための十分な支援が必要であるとされている。そこには、生活者としての視点が重要な光を放つ。慢性疾患 (chronic disease) から慢性の病い (chronic illness) と捉えなおすと、疾患の経過に焦点をおくというより、病いとともにある個人および家族の経験に焦点をおくことが可能となる。

*「語ることは容易ではない、聴くこともまた同様である。重い病いを患う人々は身体ばかりではなく、その声においてもまた傷ついている・・・。」 (AW.フランク)*

クロニックイルネスと表現するとき、ケアの焦点は治癒 (cure) にあるのではなく、“病気とともに生きること (living with illness)” にある。それは病気を管理し、病気とともに「生きる方策を発見する」ことでもある。この発見を支えるためには、その個人と家族がどこから来て、どこへ行こうとしているのかを常に心にとめておかななくてはならないとされる。

今回は、クロニックイルネスの考え方や病みの軌跡をふまえ、人が人を支援することについて皆様と考えてみたいと思う。おそらく、そこから、人と病いの新たなかかわりを見出す探究の可能性が生まれるであろう。

1. クロニックイルネスと腎不全ー病いと生活ー
2. 「病みの軌跡」 (the chronic illness trajectory) の考え方
3. 生活者と「生きる方策を発見する」ことについて
4. Motivational Interviewingの意義とは

### 文献

- IM.ラブキン, PD.ラーセン：クロニックイルネスー人と病いの新たなかかわりー, 医学書院, 2007.
- P.ウグ編：慢性疾患の病みの軌跡, 医学書院, 2003.
- AW.フランク：傷ついた物語りの語り手ー身体・病い・倫理ー, ゆみる出版, 2002.

## 看護ケアの質評価への取り組み

鄭 佳紅

青森県立保健大学 健康科学部看護学科

医療の質の標準化・保証が進み、質の高いサービスを提供することは当たり前のようにになっている。看護ケアの質に関する研究は、国内では1987年に聖路加看護大学を中心に行われた看護QA(質保証)研究班による患者、看護師双方からの評価ツールの開発(研究代表者：南裕子)が最初である。そして、1993年度から5年間にわたる「看護ケアの質の評価基準に関する研究」(主任研究者：片田範子)により、看護ケアの質の6領域の評価指標が開発され、構造、過程、成果の3つの局面を評価する方法が開発された。その後、現在ではWebシステムを活用して大量のデータを蓄積するための画面の操作性の向上や、看護ケアの質評価指標や尺度の精練をもとに、「Web版看護ケアの質評価総合システム」が構築され、筆者もこのシステムの運営に関わっている。

Donabedian(1969)は、看護ケアの質について、医療の質と同様に「構造structure」「過程process」「結果outcome」の局面からとらえる必要性があることを提唱した。

構造(Structure)；医療・看護が提供される条件を構成する因子

過程(Process)；専門家によって行われる活動

結果(Outcome)；提供された医療や看護に起因する患者の変化

また、看護ケアの質の評価者は、「患者および家族」「看護師自身」「第三者」「保険支払い側」がある。

患者・利用者・家族の評価；自分に提供された医療の内容や技術の評価するのは困難。

結果としての健康回復感や満足度で評価する。

自己評価(看護師自身による評価)；妥当性、信頼性、客観性に欠ける。

自己に甘く評価される傾向がある。

第三者の評価(外部団体による評価)；自己評価よりは客観性において優位。

評価の専門性を要求される。同じ基準で評価できる。

保険支払い側の評価；医療保険団体により、当該疾病(群)に対して適正な費用が

請求されているのかを評価する。詳細な基準に基づく。

一般に、看護は医療サービスに含まれるものとしてとらえられており、サービスの受け手である患者が医療施設を訪れるのは、診察や治療が目的である。よって、サービスの受け手である患者および家族は、看護ケアだけをとりえて評価をすることは少ない。しかし、サービス提供者として多くの時間を費やしているのは看護師であることが多い。

そこで、今あらためて看護ケアの質について確認し、今後さらに質の高いケアを提供するためにどのように取り組むのか、なにができるのか、について考えてみたい。

## あらためて、医療安全を考える ～医療事故の経験から伝えたいこと～

高山 詩穂

架け橋 ～ 患者・家族との信頼関係をつなぐ対話研究会

2000年2月、人工呼吸器の加温加湿器に注入する滅菌精製水を消毒用エタノールと取り違い、その後も誤注入を繰り返すという医療事故が起きました。私は最初に容器を取り違えた当事者の看護師です。これまで、刑事裁判・民事裁判・行政処分などを経て、自分にできる償いは何だろうと考え続けてきました。現在は、「同じ苦しみを繰り返したくない」という一心で、微力ながら、自分にできる医療安全に関する活動に取り組んでいます。

1999年に横浜で患者取り違い手術事故が起こってから12年が経ちます。この12年間で医療安全に関する取り組みは大きく変わってきました。しかし、まだまだ同じような事故は繰り返されている現状があり、変わらない・変わらないことも多くあるのではないのでしょうか。自分の起こした事故を通して学んだこと～“医療安全の基礎である5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の重要性”“目的外使用のリスク”“コミュニケーションエラー”“インシデントレポートの意味”等についてお伝えしたいと思います。日常業務を振り返り、あらためて医療安全について考える機会となれば幸いです。

ご遺族が医療者に伝えてほしいとおっしゃったことは、「エラーが起きるのは、時間が経てば理解できるようになる。でも、事故隠しをされた傷は一生消えない。信じていた人たちから裏切られた悲しみは癒えない」という言葉です。当時の事故後の対応について、ありのままの事実を知っていただくことで、“速やかに起きた事実を伝え、謝罪する”ことの大切さを感じていただきたいと思います。

私は決して強い人間ではありません。これまで、泣いてばかりの日々も、生きている意味がわからなくなったときも、さまざまな不安や葛藤や恐怖もありました。それでも、少しずつ、事故と向き合い、自分にできることをしていきたい、医療安全に取り組みたいと思えるようになったのは、これまでに出会うことのできた多くの方々のご支援があったからです。これまでの日々を支えてくれた出来事や言葉をご紹介します。当事者支援の在り方についても考えてみたいと思います。

事故はなぜ起こったのか。

事故が起こったときにどうすればいいのか。

今の自分にできることは何か。

1件でもエラーや事故がなくなるように、皆様と一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。

◆架け橋～患者家族との信頼関係とつなぐ対話研究会

HPアドレス：<http://medmed2008.blog43.fc2.com>

## 看護現場学・「経験の概念化」による看護の可視化

陣田 泰子

済生会横浜市南部病院 院長補佐

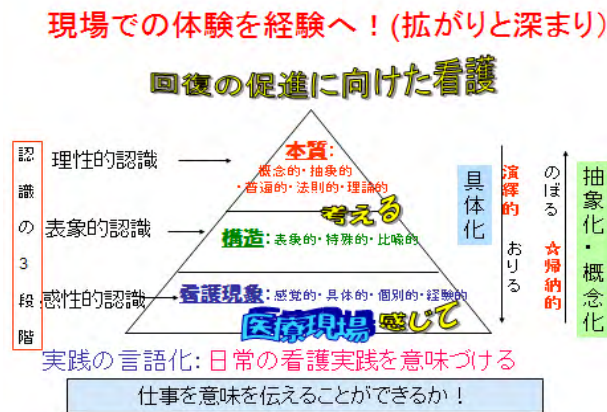
### 1. DPC以後の看護現場の変化

平均在院日数短縮という現象が、これまでの「病院」のイメージを大きく変えて久しい。昨今の病院は、「静か」で「特別な所」、という過去の姿とはほど遠く、イメージは「病院工場」である。このような中で「やりきれない…」思いを抱きながら、現場に立ち続ける多くのナース達。

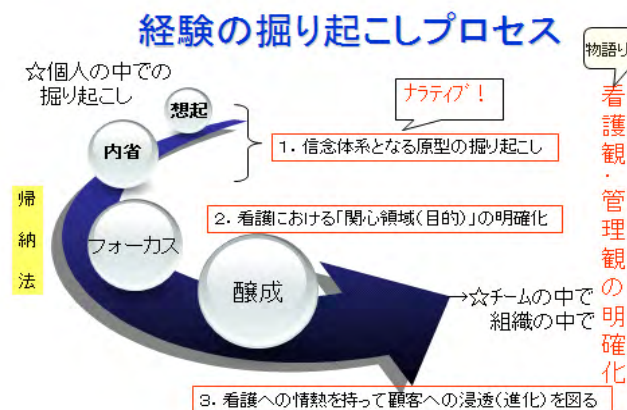
「Doing Nurse」とは、アメリカの医療ジャーナリスト、スザンヌ・ゴードンの言葉である。ひたすらDoing・Doing・Doing。まさに言い当てている。

### 2. Doingナースからの脱却！

Doing (看護現象) から、その現象を抽象化し意味づけ (構造)、本質 (看護の目的) へと向かうプロセスである。ゆったりとした時間の流れの中で実践されてきた看護は、先輩～後輩との間で、自然にDoingから下図のように認識の段階を登っていた (認識の上り降り)。今、この認識の3段階、たった3段階が登れない！



### 3. 経験の概念化 (見える化) の方法と、その成果





## ナースが行う安全フットケア

山口 晴美

HANA NURSING THERAPY

私は10年前にフットケアの研修会に参加して医師が行うフットケアを知りました。それは治療が主な目的で糖尿病患者さんの壊疽から巻き爪、胼胝、鶏眼、靴の作成まで関わっておられました。

それまでフットケアといえば心地よいマッサージだと思っていたのでこんな視点もあるのかと驚き、興味もわきました。それから色々なフットケアを学んできました。

医師の行うフットケアは患者さんの治療目的としては重要なことですし、美容目的のフットケアも知識、技術的には画期的でした。しかし看護師が看護として行うにはどちらも限界がありました。

私はそれを限界とせず看護師の視点で看護ケアとしてとらえたいと考えました。

看護ケア技術として必要なことは観察をして今、相手にとって必要な看護ケアは何かを探索し、必要最小限のサポートをし、自立の援助をすることだと思います。

足から全体を観察して患者さんの状況に合わせてケアの選択をおこなうこと。

日常生活を安楽に行うために清潔保持の足浴であったり、危険防止の爪切りであったり、疼痛緩和の胼胝、鶏眼、巻き爪のケアを安全におこなうこと、またコミュニケーションの方法の一つとして、歩くための足を維持させる、循環を促す等、目的を持ったフットマッサージ等を考えました。

これは特別な技術ではなく看護師ならば誰でもできる一定の看護技術とすることが多くの患者さんを安楽にすることだと思います。

今回は以下の内容をお伝えしたいと思います。

1. 足の観察ポイント
2. 正常な爪のケア  
爪切り、やすりがけ
3. トラブルを起こした爪のケア  
ケアの必要な巻き爪や陥入爪、肥厚した爪は今までに経験したことがないものが多く、技術に自信がないため安全にケアが行えそうにない症例対応に悩むことが多いです。  
そういった症例のアセスメントからケア実施、評価まで実際に行ってみましょう。
4. 異常な爪の練習用キットの作り方  
いきなり患者さんのケアを行うのがためられるケースはモデルを作成し、検討してから行うのがよいと思います。安価で簡単に作成できるキットを紹介いたします。
5. 短時間でできる簡単フットマッサージ  
歩くサポートをするため、循環の改善、心地よさの提供等、同じ手技で清拭や体位変換時に行うことができるマッサージです。
6. 安全にフットケアを行うためのフットケアツールの紹介  
安価で誰でも使うことができるツールを紹介いたします。  
爪切り、ストローゾンデ、やすり、足浴等

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

## 「このクリニックで透析を続けたい」 患者の願いを叶えるための在宅支援を考える

井島 順子

医療法人社団三宝会 志都呂クリニック 看護師長

### 【はじめに】

近年、当クリニックにおいても患者の高齢化により、介護保険使用者数は増加傾向にある。

現在、透析患者数260名の中で、介護認定を受けている患者47名、内要介護認定者数39名、要支援認定者数8名。通所サービス利用者16名。入所系サービス利用者4名。訪問介護利用者10名。訪問看護利用者1名。短期入所サービス利用者2名。

平成20年に居宅介護支援センターを立ち上げてから徐々に利用者数は増加傾向にある。

### 【現状】

- ① 当クリニック居宅介護支援センター利用者に対し、ケアマネージャーが透析室を毎日訪問、サービスの充実・変更等を随時行う。
- ② 各患者がどのようなサービスの提供を受けているのか、スタッフの理解を深める為にウィークリーレポートを提出。
- ③ 月に一度の院内会議の中で、居宅介護支援センターの情報も共有化する。
- ④ 通所デイサービス・家庭・クリニックの全ての情報を共有化する為に、一冊の共通ノートを作成する。
- ⑤ 地域包括支援センター合同の勉強会、定期連絡会をもうけ、透析患者の受け入れがスムーズに行えるように働きかける。
- ⑥ フットケア、創傷処置など、非透析日はデイサービスでの施行、またはヘルパー介入時の確認、入浴サービス時の処置確認などの協力依頼。
- ⑦ 他病院へ入院治療していた患者が、退院後スムーズに在宅生活に戻れる様、入院中より病院との連携を図り、退院前訪問調査を行う。
- ⑧ クリニック内スタッフ全員参加型の介護勉強会を開催中(第4回まで終了)

### 【まとめ】

継続的ケアが必要な患者は増加傾向にある。一人暮らしの患者も多く、普段よりケアマネージャーとの連携を密にしておくことで、依頼、協力もスムーズに行うことができていると考える。

家族と同居し、通院透析していた患者が、介護が必要になった時、家族から同居を拒否される例も少なくない。面倒を見られない・私たちの生活に支障がでるなど、家族の意見は様々だが、介護を必要とする部分に上手に介入することで、今までと同様の生活状況の中で通院透析を可能とすることもできる。

通院透析が継続してできるようにする為の援助として何が必要なのか？

患者・家族のニーズも多様化し、それに答えるべくサービスも多様化してきている。サービス内容を把握し、外部にどのような働きかけをして連携を図るか、またどのような方法で情報を共有化し、よりよいサービスの提供をしていけるかが今後の課題と考える。

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

## 腹膜透析患者との導入から在宅における連携の実際

三上 裕子

岡山済生会総合病院 腎臓病センター

腹膜透析療法(以下PDと略す)は、在宅治療として病状や希望により導入されているが、透析患者全体の増加に比べ患者数の増加は少ない。PD継続期間や高齢者では自己管理能力、ADL低下の問題がありPD療法を実施している施設が少ない現状がある。当院では医学的理由以外では、患者・家族の希望により積極的にPDを導入している。多くのPD看護の経験から、導入から在宅までのあらゆる連携を考えてみたい。

まず導入時では、医師と共に患者への療法選択が重要となっている。透析を受けなければならなくなった患者に対して、血液透析・在宅血液透析・腹膜透析・移植に関する情報を提供することが必要である。特に看護師は、透析後の具体的な生活がイメージできるように説明し、年齢や社会的活動を把握しそれぞれが抱えている問題の相談を受けながら、治療の自己決定ができるように支援しなければならない。また、高齢者では導入時入院中から介護保険を利用できるように、MSW・訪問看護・ケアマネージャーなどと調整し在宅への不安が軽減できるように相談をしている。

続いて在宅では、患者は「何かあったらどうしよう」の気持ちが強いいため、病棟と外来を連携し24時間オンコール体制を重視している。そして、PD患者では経過がよければ月1回の定期外来受診となるため、外来受診でのケアが大切で問題があればその場での対応が求められる。すべての年代で、PD療法を受けているための不安や悩みは違っているが、特に高齢患者では在宅支援体制を考慮しなければならない。多くの高齢者は元気で自立しているが、加齢と共にPDの自己管理能力が低下し、バッグ交換の自立ができなくなれば家族のサポートが必要となる。もしサポートが無理なら、血液透析への変更と介護付有料施設か、病病・病診連携への転院となってしまう。

このような現状ではあるが、腎不全看護の中でPD療法では看護の力を大いに発揮できる魅力がある。PD手技習得では、時間がかかっても自立できた時や、トラブル時の電話連絡での対応も最初に受ける看護師が判断し医師へ連携している。また、在宅できるために他職種と連携しながら在宅支援を検討している。最も重要なことは、患者・家族とのコミュニケーションを密にし、導入期から維持期・終末期と関わり、患者満足を継続させることである。

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

## 保存期教育入院における関わりの中で私が思うこと

井本 千秋

近江八幡市立総合医療センター 腎臓センター

当センターでは、Total kidney careのもと、透析患者だけではなく、それ以前のCKD患者への関わりにも力を注いでいる。特に末期腎不全に移行しないよう保存期腎不全の段階で看護師が関わることは、患者にとって身体的、精神的、社会的支えになると考えている。

当センターは水曜日入院、翌火曜日退院の1週間のスタンスで保存期腎不全教育入院を実施しており、毎週3~4名、年間150名近くのCKD患者を受け入れている。

患者にとって、この1週間は検査により、CKD患者であるという自覚を持ち、進行のレベルを知って、腎臓をいたわろうとする思いをもっていただくこと。そして、医療スタッフから受ける指導により、進行を抑制するための自己管理が身につく、腎臓にやさしい生活習慣に改められるような学びの期間である。

そのため、看護師は患者の生活習慣、性格、病気への思いを把握することに努める。数日の間に把握しなければならぬため、時間をかけて関わるようにし、より注意深く、入院中の生活を観察し、患者とその家族の情報を得ようと努力します。

しかし、情報を得るために関わろうとするのは業務上の事で私自身は患者を人として関心を寄せ、患者ではなくその人そのものを知りたいという思いから入るようにしている。そこでその方がどのように生きてきたか、大事にしているものは何か、生きがいは何かを知ることができる。こうして、看護者という立場を少し横において、指導とは別に患者と話をするようにしている。

そこで得た情報も参考に1週間の教育入院の間に、患者が腎臓病を持ちながら上手に生活ができる事を目標に「入院して良かった」と思っていただけよう熱意のこもった関わりをこれからも継続していこうと思う。

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

## 地域での腎不全看護の実践

赤津 サトミ

諏訪赤十字病院

甲信越地区・長野県では2005年から長野県透析看護連絡会を発足し活動を始めてきました。DLN連絡協議会が発足する前年のことで、DLN認定試験が始まり、学会員同士で勉強会を持ちたいという希望があったことからでした。当時DLN資格取得のための教育セミナーは中央での企画だったので、現場で働く学会員がすべての教育セミナーを受講できるわけではなく、施設によっても学ぶ機会に大きな差がありました。学会員個々で勉強していくよりは、一緒に勉強をすることで横の関係を繋げていくこと、県内の学会員同士の連携を培い、一緒に勉強会を開き受験対策をしていきたいという会員の声を反映して発足しました。年に1度の勉強会でしたが、県内の学会員との連絡や交流ができ、所属施設を超えた活動の契機になったと考えます。県内では透析看護師会の歴史は深く、透析従事者として顔を合わせる機会は多々ありましたが、情報交換をするなどの交流はありませんでした。日本腎不全看護学会員という共通の立場で、エキスパートナースを目指すという目標があることがとても良い絆づくりにもなりました。最初に取り組んだのが、施設の枠を超えての共同研究でした。2006年から透析患者の便秘に注目して共同研究に取り組みました。研究のための知識の構築のために、勉強会を企画、市民フォーラムで透析患者、家族、一般市民に向けて公表し、成果は学会発表という形をとりました。また、所属施設の患者、家族だけではなく広く一般に向けて、透析領域に携わる私たちに何ができるのかを検討し、患者会とも相談しながら、市民フォーラムに取り組むことになりました。共同看護研究を開始していたので、県内の学会員、DLNとの交流が深まり、市民フォーラムに取り組む流れを作ることができました。2009年からはさらに地域に根差した腎不全領域での看護活動を考え、「CKD市民フォーラム」を開催しています。今年で3回目となるCKD市民フォーラムは、毎年参加者が200名を越し、続けてほしいという声も聞かれています。私たちが行ってきた活動は、腎不全領域のエキスパートとして、地域に還元できる看護の提供を目標に、暗中模索の中から考えてきました。今後CKD患者の早期発見のためには、医師はもとより、看護師だけではなく保健師、栄養士、薬剤師、など多くのコメディカルとのチームづくりが課題であると考えます。また、医療職ばかりでなく他職種との連携も大きな力であるので「絆の輪」を広げていくことも大切だと考えています。

座長：中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事  
江崎アサ子 岡崎北クリニック

## 『その人らしさ』に則った生活調整支援

上田 聡美

医療法人社団手稲ネフロクリニック

透析看護の目標は『治療を受けている目的を果たせている、と本人が思うことができる』であると思います。治療を受ける目的は自分で見つけるものなので、医療者の役割は、患者が自発的に見つけた目的に向かって支援し続けることです。透析看護の醍醐味を『治療を受けてどう生きたいか』を叶えるために努力することと位置づけ、患者の『その人らしさ』を守れる看護を目指しています。

導入に伴い患者には透析治療に合わせて生活を調整する必要が生じます。生活調整とは、『その人らしさ』を形作るもの(価値観、環境、役割など)で成り立っている生活に関する行動変容です。よって生活調整は『その人らしさ』に基づき、患者主体で進めることが望まれます。

以上から当院では、まず『その人らしさ』の把握に努めます。それにより主観に寄り添うことが出来ます。更に患者の主観と医療者による客観とのズレを辿り『その人らしさ』の認識を深めていきます。「導入前後の変化の捉え方」により、独自の人生における優先順位を把握します。導入後の生活状況を、生活調整のゴール設定の基準とします。そして「透析患者となった自分をどのように受容しているか」に関心を寄せることも重視しています。

当院はサテライト型のクリニックです。導入期から維持期まで一貫した看護を提供できることから、個別性に合わせられる範囲が広いのが強みです。また、当院での外来導入、他施設からの紹介など来院時の状況がさまざまです。転入患者の特徴を踏まえ当院の強みを生かし、導入期における生活調整支援では、前施設で受けた指導内容も考慮し、個別性に合わせた指導展開を検討、実施しています。

また、一貫した看護の提供を目指し導入期チェックリストを作成しました。その中にこれまで関心の低かった「患者の心のありよう」に関する欄を設けています。チェックリストに沿って関わり、内容を共有する事により、患者の『その人らしさ』を重視した看護展開に当院の看護師が慣れていくことを期待しています。

『その人らしさ』を把握するためには、患者の一言を大事にし、その発言内容の意図するところに関心を寄せた会話を重ねることが重要であると考えます。

患者が、生活調整を通じて導入による様々な変化に対応し、透析とともに生きていく将来を当たり前に思えることが透析看護の期待する結果であり、『その人らしさ』を中心に看護展開することが、目標達成につながると考えます。

# 東日本震災特別プログラム抄録

---

東日本震災特別プログラム 1

**東日本大震災に際し、「透析療法ボランティア派遣活動」を経験して**

企画者 佐藤 久光<sup>1</sup>

共同企画者 遠藤 ミネ子<sup>2</sup>、許斐 眞弓<sup>3</sup>、鳥居 芳行<sup>4</sup>、帯金 里美<sup>5</sup>、江崎 アサ子<sup>6</sup>

話題提供者 上野 岳洋<sup>1</sup>、山本 ひろ子、伊藤 真<sup>7</sup>、佐藤 美佐子<sup>8</sup>

<sup>1</sup>医療法人衆済会 増子記念病院、<sup>2</sup>恵仁会 三愛病院、<sup>3</sup>宗像水光会総合病院、<sup>4</sup>春日井クリニック、<sup>5</sup>掛川市民病院、<sup>6</sup>岡崎北クリニック 看護部、<sup>7</sup>大森クリニック、<sup>8</sup>日本赤十字社 石巻赤十字病院

<リスクマネジメント委員会>

日本腎不全看護学会は東日本大震災に際し、日本透析医会、日本臨床工学技士会と緊密に連携をとり、被災地への「透析療法ボランティア派遣活動」を実施した。その経験について、①ボランティアに参加した側の立場②ボランティアを受け入れた側の立場③それをコーディネートした立場、の3つの側面から経験を交流し、その成果および課題や問題点について討論したい。発表時間は1時間とし、残りの30分で会場を含めたディスカッションを行う。



## 東日本震災特別プログラム 2

**東日本大震災時での透析看護を語る「その時!! 現場では……」**企画者 小手田 紀子<sup>1</sup>共同企画者 相澤 裕<sup>2</sup>話題提供者 相澤 裕<sup>2</sup>、野中 俊樹<sup>3</sup>、我妻 裕子<sup>4</sup>、佐藤 裕子<sup>5</sup>、佐藤 俊枝<sup>6</sup>、駒崎 純子<sup>7</sup>

<sup>1</sup>医療法人緑栄会 三愛記念病院、<sup>2</sup>東北大学 血液浄化療法部、<sup>3</sup>岩手県立大船渡病院、<sup>4</sup>仙台社会保険病院、<sup>5</sup>ときわ会 常磐病院、<sup>6</sup>医)清永会 矢吹病院、<sup>7</sup>バクスター株式会社 透析製品事業部

&lt;東北地区DLN委員&gt;

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの人々に大きな被害をもたらし、現在でも被災生活を送り日々を過ごしている現状があります。大震災の発生と同時に各自治体や医療従事者は、地域住民の健康維持、疾病予防などいろんな問題に取り組んできました。

東北地区の透析医療に関わっている看護師さんが、地震による透析施設の崩壊等で透析を行うことが困難な中で、透析患者の安全・安楽をどのように考え実施したか、また他施設の患者受け入れ状況や連携して維持透析を継続できた経緯、働くスタッフの健康管理などについて、他職種と協力しながら行ったそれぞれの看護実践を語っていただき、学会員の皆様と共に災害時の透析看護について考える機会を持ちたいと思いました。東北地区の看護師さんの実践能力と行動に敬意を表します。

東日本震災特別プログラム3

**聴こう、語ろう、私の災害体験 災害看護(こころのケア)を学ぶ**  
**その時私は・・・、そして今私は・・・**

企画者 赤津 サトミ<sup>1</sup>

共同企画者 小原 真理子<sup>2</sup>

話題提供者 水上 智加子<sup>3</sup>、本宮 浩子<sup>4</sup>、卯野 直美<sup>5</sup>、永井 美裕貴<sup>6</sup>

<sup>1</sup>諏訪赤十字病院、<sup>2</sup>日本赤十字看護大学、<sup>3</sup>仙台社会保険病院、<sup>4</sup>気仙沼市立病院、  
<sup>5</sup>医療法人社団清流会双樹クリニック、<sup>6</sup>財団法人甲南病院

3月11日の東北大地震から4か月を過ぎた今、震災復興に向けての兆しが少しずつ見えてきているようにも思われる。しかし、被災された人々が受けた衝撃は、心身共に回復には至っていないのが現状ではないだろうか? 「こころのケア」の大切さは、阪神・淡路大震災以来着目されてきている。その後に起こった新潟中越、中越沖地震を経て今回の東北大地震に至るまで、各地域での被災体験を語りあい、聴きあうことで共通理解を深めることは意味あるものであると考える。

また、昨今の日本全国各地で起こっている災害は、規模の大きさ、悲惨さが増してきている。腎不全患者に関わる私たちは、治療を継続していかなくてはならない患者を抱え、患者・家族の不安に直面する機会も多く、どのようなケアを提供したらよいか混乱も生じるのではないだろうか? 援助者としてのストレス対処の方法も経験談を交えて習得できるのではないかと考え、今回の交流集会を企画した。

# 交流集会抄録

---

## 交流集会

11月19日(土) 14:20~16:20 第4会場 (311+312)

## 交流集会1

14:20~15:20

## 熊本県における透析導入期指導パス運用の評価 第2報

企画者 宮本 友子<sup>1</sup>共同企画者 城間 久美絵<sup>2</sup>、木村 ひろみ<sup>3</sup>、原田 直美<sup>4</sup>、吉津 志保<sup>5</sup>、中村 紀子<sup>6</sup>、下川津 久美<sup>6</sup>、  
船元 千枝<sup>7</sup>、内村 由美子<sup>8</sup>、松岡 美由紀<sup>9</sup>、松原 久子<sup>1</sup>、浦 陽子<sup>10</sup>、鈴木 織枝<sup>10</sup>話題提供者 今福 曜子<sup>11</sup><sup>1</sup>医療法人如水会 嶋田病院、<sup>2</sup>熊本赤十字病院、<sup>3</sup>済生会熊本病院、  
<sup>4</sup>医療法人社団松下会 あけぼの第2クリニック、<sup>5</sup>医療法人社団松下会 あけぼのクリニック、  
<sup>6</sup>健康保険八代総合病院、<sup>7</sup>大塚泌尿器科・産婦人科クリニック、  
<sup>8</sup>医療法人社団仁誠会 仁誠会クリニック 黒髪、<sup>9</sup>医療法人社団仁誠会 仁誠会クリニックながみね、  
<sup>10</sup>医療法人社団三村久木山会 宇土中央クリニック、<sup>11</sup>医療法人如水会 嘉島クリニック

&lt;熊本県透析療法指導看護師会&gt;

熊本県では、透析導入時に各施設で作成した患者教育パスを使用しており、共通の患者指導書や評価基準がないため、転院時に連携した継続患者指導が困難であった。そこで、共同の患者指導書と評価基準を作成した。これを第13回日本腎不全看護学会の交流集会でグループワークを行い、全国の施設から意見を頂いた。その中で「評価ランクが曖昧で分かりにくい」「高齢者には指導書の内容が難しいのではないか」などの意見があり指導書の改定を行った。今回、評価ランクの指標を明確にして高齢者用パンフレットを作成した。更にこれらを使用し評価を行ったので、再度全国の皆様にご意見を頂き教育パスを完成させたいと考える。

## 交流集会2

15:20~16:20

## 「覗いてみよう隣の透析施設」～透析学習の機会の違いを知って、繋がりよう～

企画者 山本 美和

共同企画者 高尾 美香<sup>1</sup>、薄井 園<sup>2</sup>、松木 理浩<sup>3</sup>、認定6期生一同話題提供者 山本 美和、秋葉 美沙<sup>4</sup>、徳田 勝哉<sup>5</sup>、認定6期生の地域毎に報告<sup>1</sup>総合病院国保旭中央病院、<sup>2</sup>公立学校共済組合 東海中央病院、<sup>3</sup>富山市立富山市民病院、  
<sup>4</sup>杏林大学医学部付属病院、<sup>5</sup>鹿児島共済会 南風病院

&lt;透析看護認定看護師6期生&gt;

2009年末調査では、透析施設数は4125施設を数え増加の一途をたどっている。施設環境は様々で、日本透析医学会施設会員数も2010年版3770件となりそのうちクリニックと明記されている施設は約33%そのほかにも、総合病院や大学病院、個人病院と施設形態もさまざまである。施設数も施設会員をみても地域別に東京の405施設を最大とし、福井県の20施設とさまざまである。このことから、透析治療は各施設多岐にわたる。他施設の実際を知ることが困難で各施設で模索して試行錯誤している事が予想される。今回各施設が透析における学習の機会についての現状を報告し、他施設の取り組みなどから自施設に還元できることを目的とし、交流会の場を借りディスカッションを行い透析看護の質の向上を目指したい。

## 交流集会

11月20日(日) 9:00~11:00 第4会場 (311+312)

## 交流集会3

9:00~10:00

**維持透析患者の体重コントロール ～塩分制限指導を試みて～**企画者 甲斐 道子<sup>1</sup>

共同企画者 久保田 隆子、広藤 紀子、中谷 由紀子、村田 実加

話題提供者 甲斐 道子<sup>1</sup><sup>1</sup>県立奈良病院 人工透析室

私たちの施設では維持透析患者に透析間体重増加を中一日3%、中二日5%と指導している。多くの患者にとって体重コントロールは容易なことではなく、成功や失敗を繰り返しながら、日々奮闘していると考えられる。体重コントロールが透析時の血圧低下や倦怠感を左右するといえる。その体重コントロールに必要なものは塩分制限である。そのため、私たち医療従事者が、患者にどのような指導をすれば有効であるかを、指導方法を紹介し検討する。各施設での塩分制限の取り組みを紹介し、情報交換を行ってより良い患者指導につながるような取り組みをする。

## 交流集会4

10:00~11:00

**診療報酬申請を目指す人のための介入研究の基礎  
ー透析看護のエビデンスを示すために**企画者 岡 美智代<sup>1</sup>共同企画者 内田 明子<sup>2</sup>、上星 浩子<sup>3</sup>、恩幣 宏美<sup>1</sup>、岡山 ミサコ<sup>4</sup>、宮下 美子<sup>5</sup>、丸山 真実<sup>6</sup>話題提供者 岡 美智代<sup>1</sup>、上星 浩子<sup>3</sup>、宮下 美子<sup>5</sup>

<sup>1</sup>群馬大学大学院保健学研究科、<sup>2</sup>聖隷佐倉市民病院、<sup>3</sup>桐生大学看護学科、<sup>4</sup>新生会第一病院看護部、<sup>5</sup>新生会第一病院外来・在宅透析教育センター、<sup>6</sup>公立富岡総合病院

あなたが行っている看護技術、その技術のエビデンスを示したいと思いませんか？そして、それを診療報酬につなげたいと思いませんか？看護技術の成果を示したり、それを診療報酬の申請につなげたりするためには、介入研究によるエビデンスを証明する必要があります。介入研究とは、ただ介入前と後のデータを比較すれば良いというものではありません。2群に分ける方法や対象者数の決め方にもルールがあります。そこで、この交流集会では、透析看護のエビデンスを示したい人や、診療報酬申請を目指したい人のために介入研究の基礎について紹介します。具体的な内容は以下の通りです。

I 診療報酬の概説：診療報酬とは何か、どのように決められるのでしょうか。求められるのはエビデンス！！

II エビデンスとは？：米国AHCPR (Agency for Health Care policy and Research) のエビデンスのレベル。

III 良質なエビデンスを導くための介入研究の方法：介入研究のタイプ、RCT (randomized controlled trial)、consort check list、倫理審査について。

IV 介入研究の具体例：CKD患者への介入研究例など。

## 交流集会

11月20日(日) 13:00~15:00 第4会場 (311+312)

## 交流集会5

13:00~14:00

## ナーシングバイオメカニクスに基づいた生活行動回復看護技術の効果

企画者 宮本 友子<sup>1</sup>共同企画者 河部 直美<sup>1</sup>、潮崎 裕代<sup>1</sup>、西村 幸代<sup>2</sup>、日高 紀久枝<sup>3</sup>、紙屋 克子<sup>4</sup>話題提供者 西村 育子<sup>1</sup>、中川 女久美<sup>2</sup>、宮崎 絵美<sup>1</sup><sup>1</sup>医療法人如水会 嶋田病院、<sup>2</sup>嘉島クリニック、<sup>3</sup>筑波大学、<sup>4</sup>静岡県立大学

紙屋克子が代表を務める看護技術の診療報酬化を目指すヒューマン・ナーシング研究学会では、「医学的に回復困難と診断された遷延性意識障害患者や長期臥床による重症障害患者に対してQOL向上と生活の再構築」をテーマに新しく開発された紙屋式看護プログラムによって身体の拘縮改善、ADLの向上、経口摂取、コミュニケーション能力の獲得などの事例を集積し、看護技術の開発やエビデンスの構築を図ることを目的としている。

今回、その生活行動回復看護技術(以下NICD)を脳卒中で意識障害・廃用症候群を合併した透析患者に実践した結果と二次的効果として報告されている用手微振動療法による便秘の改善を透析患者に実践した結果を報告する。さらに、実際のNICDを紹介することで、全国の皆様への普及を目指したいと考える。

## 交流集会6

14:00~15:00

## 誰がモンスターペイシェントなの？

企画者 二之湯 勝則<sup>1</sup>、共同企画者 上村 雅実<sup>2</sup>、藤川 孝子<sup>3</sup>、森井 浩美<sup>4</sup>、山本 久代<sup>5</sup>話題提供者 中村 奈美<sup>6</sup>、後藤 浩也<sup>7</sup>、喜多 静香<sup>8</sup>、坂 加代子<sup>9</sup>

<sup>1</sup>市立四日市病院人工透析室、<sup>2</sup>武内病院人工腎センター、<sup>3</sup>山田赤十字病院血液浄化センター、  
<sup>4</sup>岡波総合病院透析室、<sup>5</sup>市立伊勢総合病院透析室、<sup>6</sup>鈴鹿腎クリニック透析室、<sup>7</sup>遠山病院透析センター、  
<sup>8</sup>済生会松阪総合病院透析室、<sup>9</sup>鈴鹿中央総合病院透析室

&lt;チーム三重&gt;

モンスターペイシェントとは医療従事者や医療機関に対して自己中心的で理不尽な要求果ては暴言・暴力を繰り返す患者や、その保護者等を意味する和製英語であり、医療現場でモラルに欠けた行動をとる患者をこのように呼ぶようになっているとされている。

一般的に透析室に勤務する医療スタッフは繰り返し通院される患者と接して仕事を行っているため、トラブルが発生した場合はどのスタッフにおいてもトラブルに巻き込まれ対応する可能性がある。また、トラブルを起こした患者はその施設ではモンスターとまでは行かなくても、トラブルを起こした患者とみなされ、施設によって対応は違うが注意して扱われるようになる。

今回チーム三重ではモンスターペイシェントについてディベート形式の討論を行う。その中で、患者・家族の関わり、スタッフの視点、考え方などにおいてフロアの方々と意見交換を行い、参加者双方が、互いに学べる交流会にしたい。

# 第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会 企画委員会

---

## 14回企画委員長・大会長

---

萩原千鶴子 医療法人真仁会 横須賀クリニック

## 実行委員長

---

富樫たつ子 医療法人真仁会 三浦シーサイドクリニック

## 運営委員長

---

土屋 和子 医療法人真仁会 久里浜クリニック

## 企画委員

---

水附 裕子 特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター

大坪みはる 特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター

杉田 和代 聖マリアンナ医科大学病院

中山 重雅 日本腎不全看護学会 理事

宇田 有希 医療法人真仁会

小手田紀子 医療法人緑栄会 三愛記念病院

## 実行委員

---

佐藤 幸子 医療法人社団石川記念会 日比谷石川クリニック

近藤 美幸 医療法人社団邦腎会 大井町駅前クリニック

遠藤 優子 仙台社会保険病院

赤津サトミ 諏訪赤十字病院

江崎アサ子 岡崎北クリニック

高橋 妙子 医療法人 佐藤循環器科内科  
(15回大会長)

山本ひろ子 医療法人 佐藤循環器科内科

---

# 第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会 査読委員

---

大坪みはる	特定医療法人沖縄徳洲会 葉山ハートセンター
赤津サトミ	諏訪赤十字病院
中村 咲子	海老名総合病院附属 海老名メディカルサポートセンター
水町 淑美	テルモ株式会社ホスピタルカンパニー
島崎 玲子	医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック
小江奈美子	国家公務員共済連合 浜の町病院
田中 順也	市立堺病院
植木 博子	東京都済生会中央病院
斉藤しのぶ	千葉大学大学院看護学研究科
三村 洋美	昭和大学保健医療学部看護学科
水内 恵子	福山平成大学大学院 看護学研究科
岡 美智代	群馬大学大学院保健学研究科
恩幣 宏美	群馬大学大学院保健学研究科
石井 俊行	四国大学看護学部看護学科
神谷 千鶴	関西看護医療大学
杉田 和代	聖マリアンナ医科大学病院
上星 浩子	桐生大学医療保健学部看護学科
阿部 利恵	日本赤十字看護大学
中山 重雅	日本腎不全看護学会 理事
高橋 妙子	医療法人 佐藤循環器科内科



## 後援・協賛団体・企業一覧

### 後援一覧

横浜市

公益社団法人日本看護協会

社団法人神奈川県看護協会

社団法人東京都看護協会

社団法人千葉県看護協会

### 協賛施設・企業一覧

医療法人緑栄会 三愛記念病院

医療法人社団誠仁会 みはま病院 吉田 豊彦

聖隷佐倉市民病院 院長 南 昌平

自由が丘南口クリニック 稲本 元

帝京大学医学部内科 内田 俊也

八王子東町クリニック 院長 杉崎 弘章

東村山診療所 井上 彰

横浜市立大学附属市民総合医療センター  
平和 伸仁

北里大学病院 血液浄化センター 鎌田 貢壽

医療法人社団相和会 渕野辺総合病院

岡崎北クリニック 佐々 良次

医療法人社団昇陽会 阿佐谷すずき診療所  
理事長 鈴木 利昭

海老名メディカルサポートセンター

順天堂大学医学部 腎臓内科

医療法人眞仁会 理事長 笹岡 拓雄

株式会社医学書院 常務取締役 七尾 清

医療法人佐藤循環器科内科

社会医療法人名古屋記念財団 鳴海クリニック

社会医療法人名古屋記念財団 金山クリニック

社会医療法人名古屋記念財団 東海クリニック

### ランチョンセミナー協賛企業一覧

協和発酵キリン株式会社

株式会社ジェイ・エム・エス

中外製薬株式会社

鳥居薬品株式会社

バイエル薬品株式会社

富士フイルム株式会社

日機装株式会社

日本コヴィディエン株式会社

## 展示企業一覧

石井食品株式会社	帝人在宅医療株式会社
株式会社インターヴォイス	日本コヴィディエン株式会社
エルピス株式会社	株式会社VIPグローバル
協和発酵キリン株式会社	株式会社文光堂書店
グランメイト株式会社	マルホ株式会社
株式会社三和化学研究所	株式会社メディカルプロジェクト
株式会社ジェイ・エス	メデイキット株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス	株式会社メルシー
セーレン株式会社	持田ヘルスケア株式会社
大正富山医薬品株式会社	株式会社ヤマト
中外製薬株式会社	

## 抄録集広告企業一覧

株式会社医学書院	バイエル薬品株式会社
医歯薬出版株式会社	マルホ株式会社
協和発酵キリン株式会社	株式会社メディカ出版
中外製薬株式会社	メデイキット株式会社

## ポケットプログラム(ミニプログラム) 広告企業一覧

川澄化学工業株式会社	鳥居薬品株式会社
協和発酵キリン株式会社	バイエル薬品株式会社

## バナー広告企業一覧

中外製薬株式会社	マルホ株式会社
----------	---------

(2011年9月末現在/50音順・敬称略)

本学術集会の開催にあたり、皆様より多数のご協力を承りました。  
ここに深甚なる感謝の意を表します。

第14回日本腎不全看護学会学術集会・総会  
大会長 萩原 千鶴子